

J



**Canon**  
**EF**

使用說明書



写真を職業とする、いわゆるプロカメラマンと一般の写真を趣味とする写真愛好家との間には「物を見る目」と「物を再現する技法」の2つに差があるといわれています。

「物を見る目」は感覚的なもので機械の入る余地はありませんが「物を再現する技法」は当社の技術を結集すれば、誰にでも可能となるよう解決することができます。

そのために開発したものが、このキヤノン EF です。

初心者には簡単にベテランの味を、ベテランにはその限りない応用によって、写真の深さを味わっていただけることでしょう。

キヤノン EF によって、写真を趣味としたことに喜びを感じまた趣味の広がりをさらに大きくすることができれば、当社にとってこれ以上の喜びはありません。

この使用説明書は基本編と実技解説編に分かれています。基本編ではカメラの扱い方全般を、実技解説編では写真技法への対処法ともいうべき内容を主に説明されています。

※都合により外観デザインの一部を変更することがあります。

※この製品の保証書は同封されているご愛用者カードと引き換えにお送りいたします。

至急ご愛用者カードに所定の事項をご記入のうえ係宛お送りください。

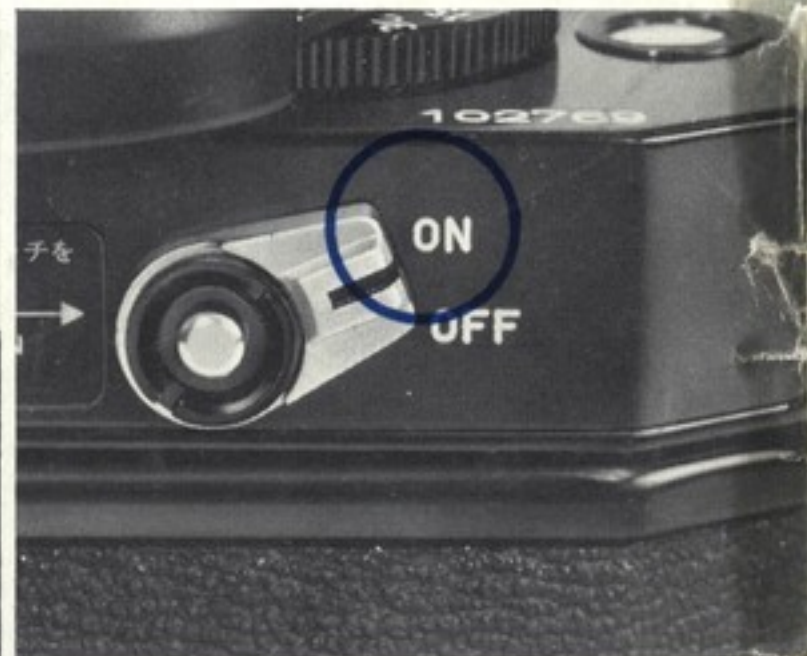






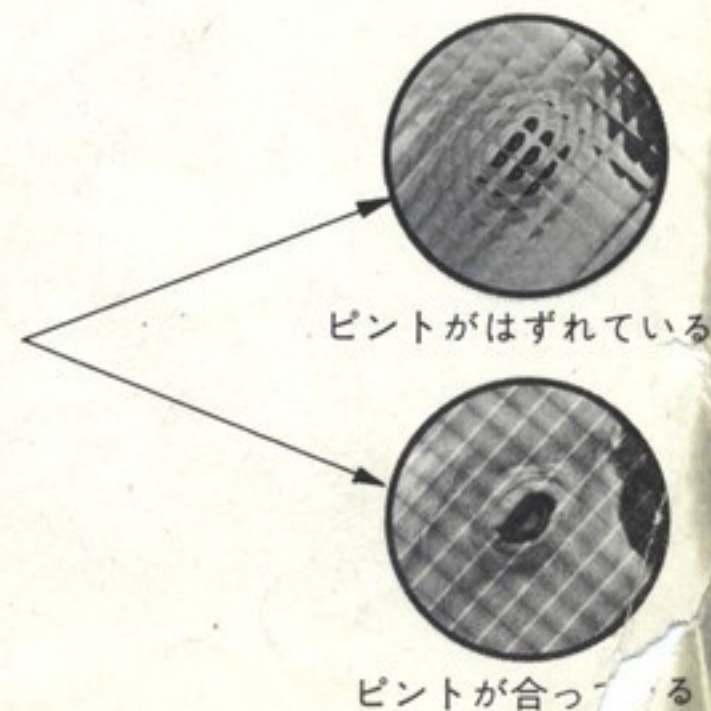
## 撮影の手順

- 1** レンズを取付ける(13頁)    **2** 緑色(EE)マークを合わせる(11頁)    **3** メインスイッチをONにする



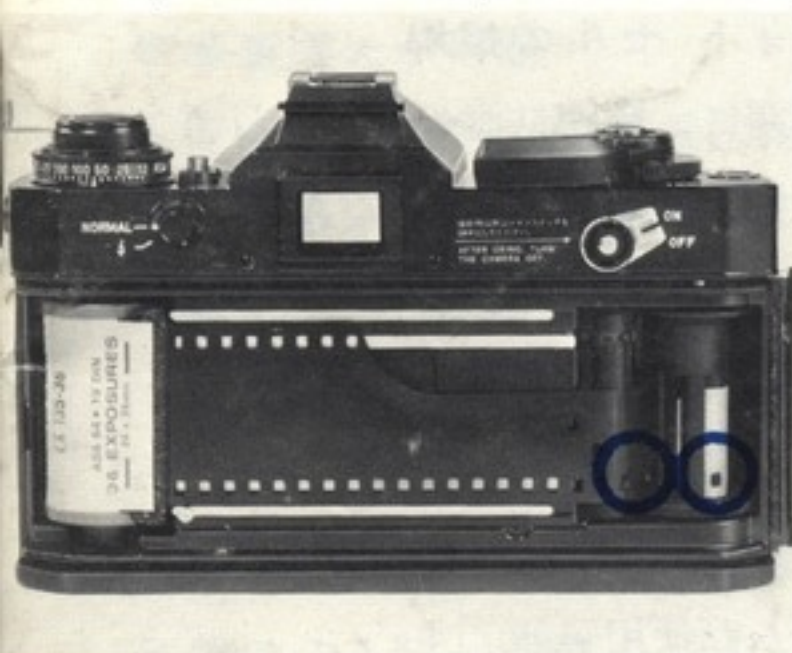
- 7** 構図を決めピントを合わせる(26頁)

- シャッタースピードをきめる
- 絞りを確認する





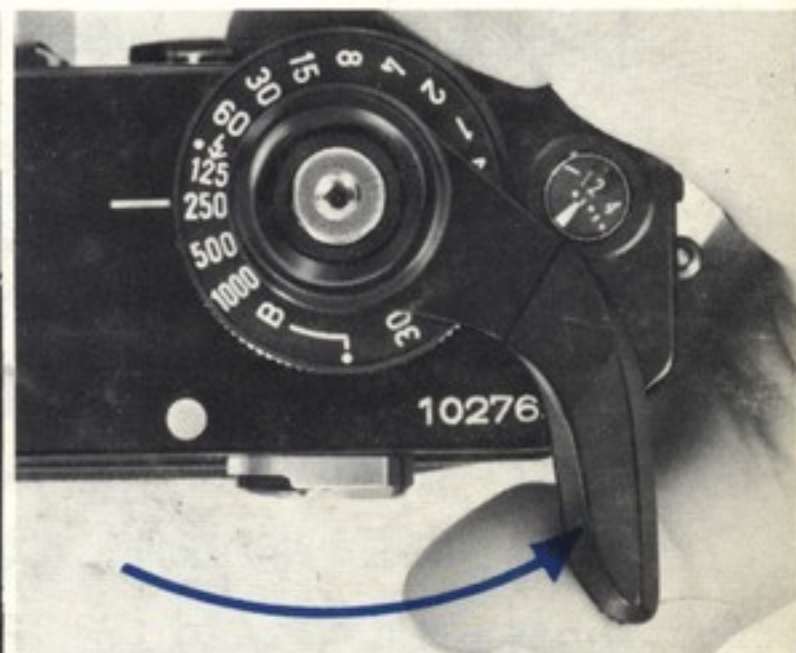
**4** フィルムをつめる(20頁)



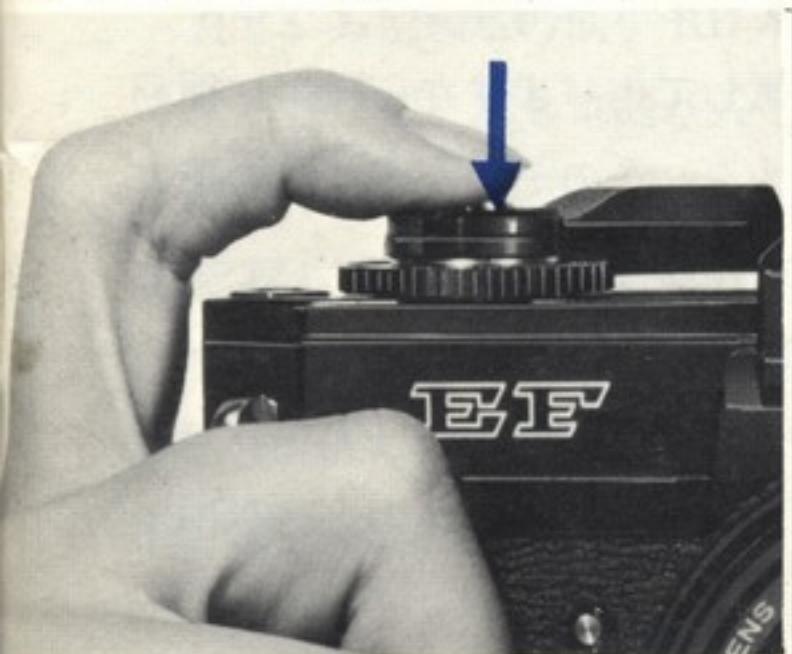
**5** ASA 感度をセットする(23頁)



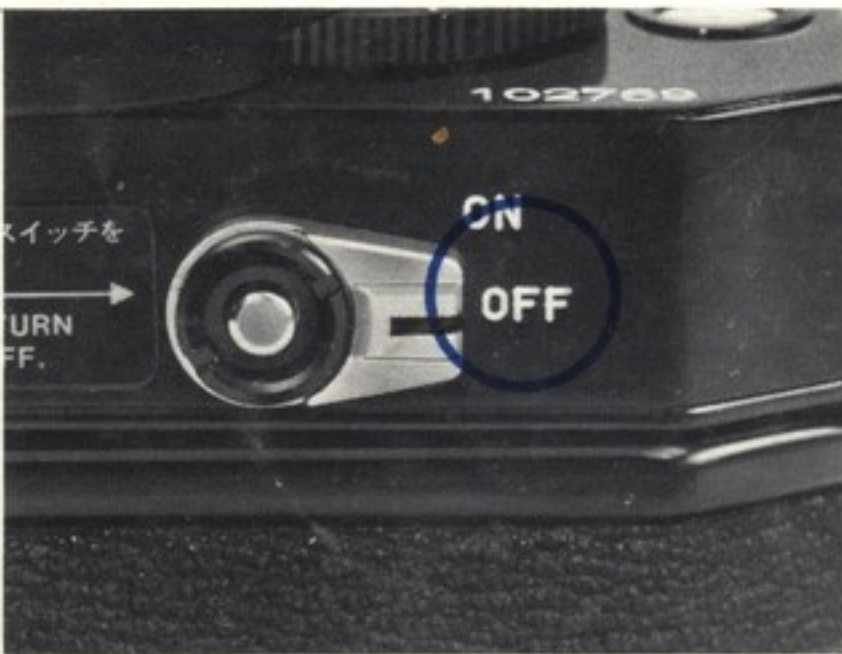
**6** レバーを巻上げる



**8** シャッターボタンを押す(27頁)



**9** 撮影後はメインスイッチをOFFにする





## 特 徴

### 1 シャッタースピード優先式の AE カメラ

このカメラは、あらかじめ決められたシャッタースピードに対して絞りが適正值に電子コントロールされるシャッタースピード優先式の AE 方式 (完全自動露出: Automatic Exposure) を採用しています。したがって、良い写真を撮るための条件、すなわちカメラブレの防止はもちろんのこと、速写性、機動性を要求する撮影分野においては大変有利に使用できる条件を持っています。

### 2 世界一、広範なシャッタースピード

$\frac{1}{1000}$ 秒から30秒まで幅広いシャッタースピードの範囲をもち、しかも高速シャッター側はメカニカル制御、低速シャッター側はエレクトロニクス制御を採用し、誤差の少ない理想的な方法をとっています。

### 3 シリコン フォト セルの採用

明るさを広範囲に、精密に測光するシリコンフォトセルの採用により、EV-2 (ASA 100・F1.4・8秒)~EV18 (F16・ $\frac{1}{1000}$ 秒)まで21段階の測光が可能となりました。また、応答性の速さは他の追随を許しません。ASA感度セットはASA 12~ASA 3200まで広範囲のフィルムが使用可能です。

### 4 情報集中ファインダー

写真を撮るために必要な情報がファインダーの中に集中配置してありますから撮影に便利です。ファインダーをのぞいたまま撮影条件の設定、変更、確認ができます。

### 5 定評ある FD レンズを使用

最高級機 F-1 のために開発した FD レンズ群を使用し、レンズの持つ機能を完全に発揮させます。



## 6 多重露光が可能

簡単な操作で確実な多重露光ができます。

## 7 ストロボ撮影が自動

キヤノン独自のキャッツ(CATS: Canon Auto Tuning System)によって、フラッシュオートが大変便利に、簡単になっています。距離合わせをするだけでAE撮影ができます。

## 8 電池の入手が容易

特殊な電池の使用を避け、ごく一般に使用されている信頼度の高いHD水銀電池を採用しました。どこでも電池が入手でき、しかも経済的です。

## 9 空写し操作不要

フィルム装填時に行なう空写し操作を必要としません。

## 10 電池が無くても使用できる安全設計

電池がなくなった場合でも $\frac{1}{1000}$ 秒から $\frac{1}{2}$ 秒ま

でのシャッターは確実に作動し、高級機としての性能が確保されます。

## 11 優れた温度特性

IC回路により温度特性が特に優れ、 $-20^{\circ}\text{C}$ ～ $+60^{\circ}\text{C}$ まで性能が維持できます。

## 12 作動シグナルの組込み

長時間露光中およびバッテリーチェック時はランプの点滅により外部からの確認ができます。この発光には発光ダイオードが使われています。



## 目 次

●必ず覚えてください.....	9	多重露出.....	54
●基本編		被写界深度.....	56
準備.....	13	ミラーアップ.....	61
カメラの構え方.....	18	赤外撮影.....	63
撮影.....	20	EFの主要性能.....	64
●実技・解説編		アクセサリ.....	66
機構の解説.....	31	整備と環境と事故への対策.....	69
シャッター優先.....	36	キヤノンクラブ・キヤノンサロンのご紹介.....	70
AEの解除.....	38	サービスステーションのご案内.....	72
絞込み測光.....	39		
CATS.....	41		
一般のフラッシュ撮影.....	44		
セルフタイマー.....	45		
低照度領域の撮影.....	47		
レンズ交換.....	49		
FDレンズ性能表.....	51		
露出記憶装置.....	52		



## 必ず覚えてください。

使用手順の中に入る項目ですが、この EF の使用上最も重要で、基本的な事項ですから、はじめに説明します。

### 1 電池を入れます。

このカメラは電池によって AE 機構がはたります。まず電池を入れましょう。

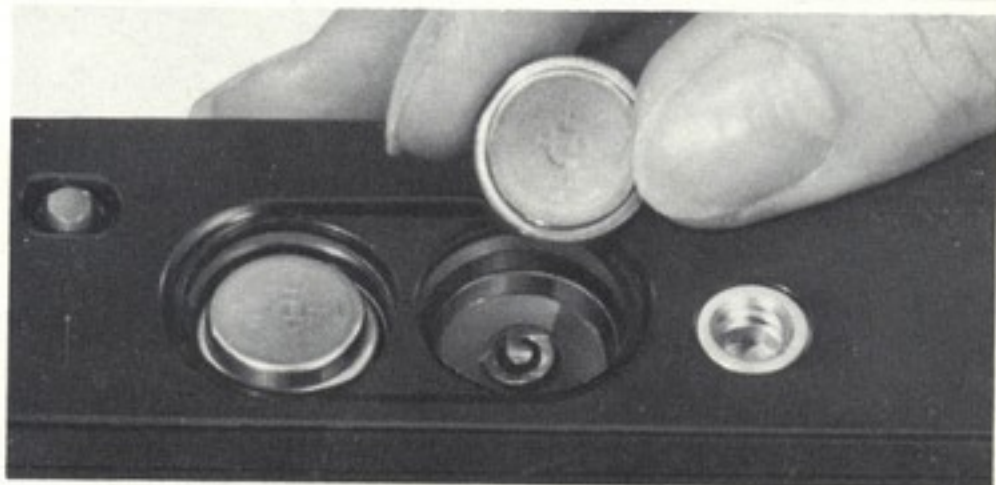
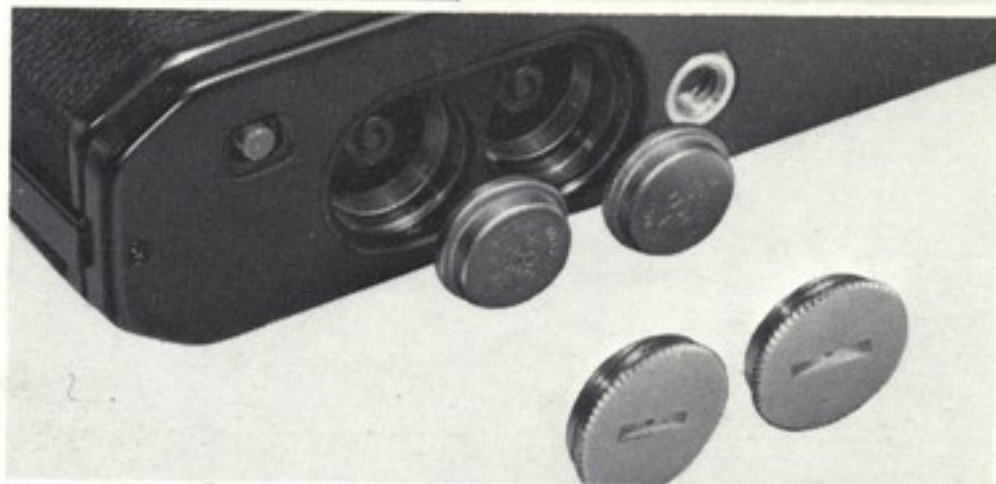
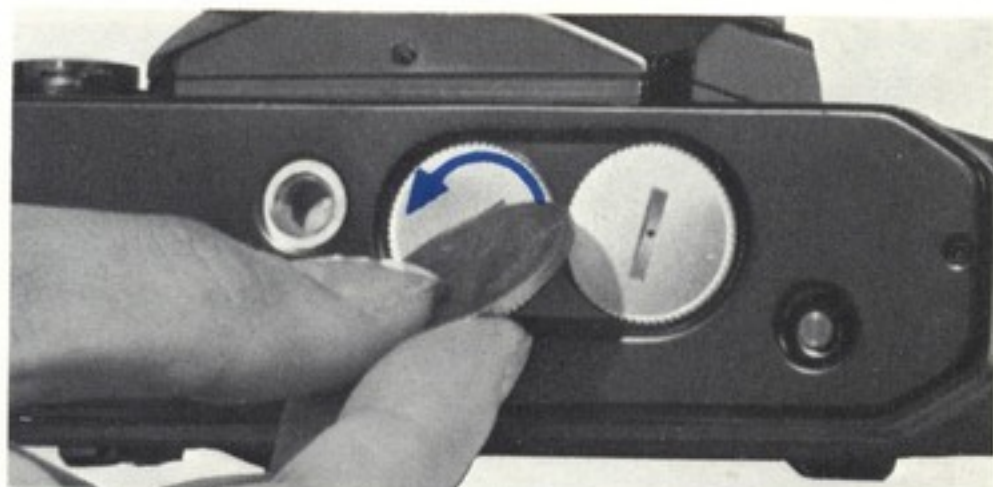
カメラの底部に 2 箇所の水銀電池室蓋（各部名称<sup>㉞</sup>）があります。蓋は硬貨などではずし、それぞれに電池一個を入れて蓋をします。

● 電池を入れる方向を間違えないように写真通りに入れてください。

● カメラを長期間使用しないときは、電池は必ず抜いておいてください。

● 電池交換は、同一銘柄のものを 2 箇所同時に行なってください。

● 新しい水銀電池をお求めの時は、必ず使用済の水銀電池を持参し、カメラ店または電気店にて現品と引換えてお求め下さい。





## 2 メインスイッチを入れます。

メインスイッチ（各部名称⑳）はカメラを使用する時だけONにします。ONにすると巻上げレバー（各部名称㉑）がわずかに飛び出して巻上げ作動OKの状態になります。OFFのときはシャッターボタン（各部名称㉒）がロックされて押せません。

- カメラを使用しない場合はメインスイッチをOFFにし、巻上げレバーを押込んでください。使用しないときもONにしてあると、露出計に常時電流を送っていますから電池が消耗してしまいます。

OFFにしないでカメラをケースに収納すると、電池の消耗度は一番大きくなります。

## 3 AE撮影のときは、必ずNORMALにします。

キャッツ切換えスイッチ（各部名称㉓）をAE





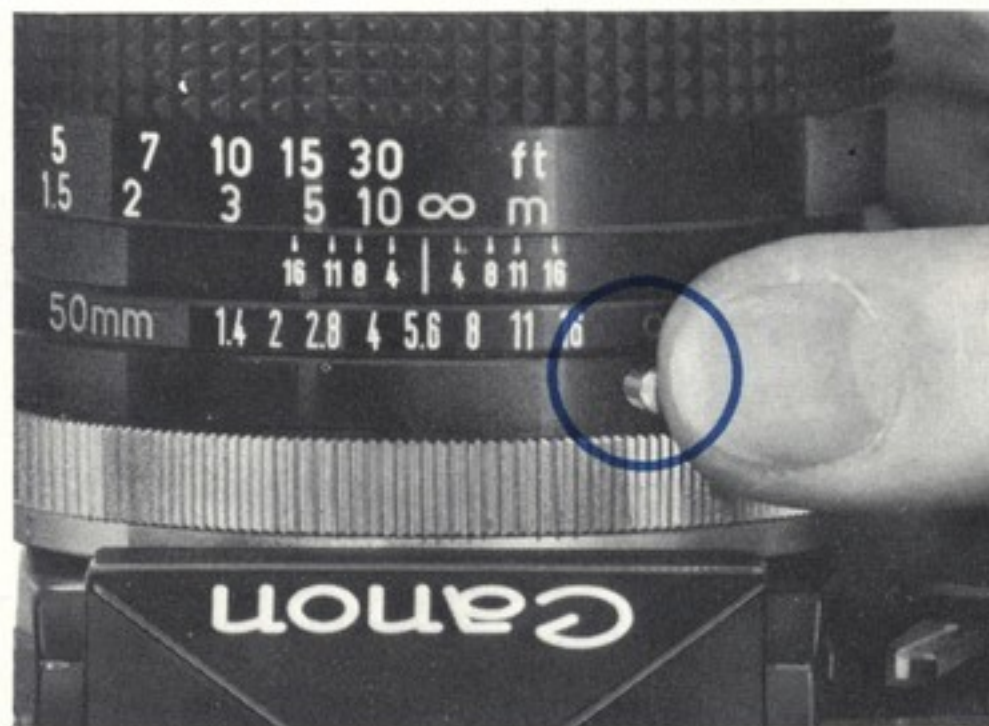
撮影のときは、必ず NORMAL にします。

⚡マークはストロボ(キヤノンスピードライト 133D)を使用するときだけです。これを間違えると正常な露出が得られません。

- 4 レンズの絞りリングを緑色マークにします。**  
お手元のカメラは多分レンズと分かれています。と思います。(レンズの取付け方は14頁参照)  
カメラにレンズを取付けたらすぐに次の操作を行なってください。

レンズのプリセット絞りリング(各部名称⑱)にある EE ロックピン(各部名称⑳)を押しながらかい印(緑色マーク・各部名称㉑)が指標の位置にくるまで絞りリングを回します。

- この緑色のマークが指標の位置にある時だけ AE 撮影が行なわれます。









## 準備

### 1 ストラップ（吊紐）

カメラにまずストラップを取付けます。  
ストラップは吊環にストラップの先端を通し、  
図のように折り込みます。

肩から下げ易い位置まで長さを調節します。  
ストラップには予備電池を入れておくケース  
がついています。活用してください。

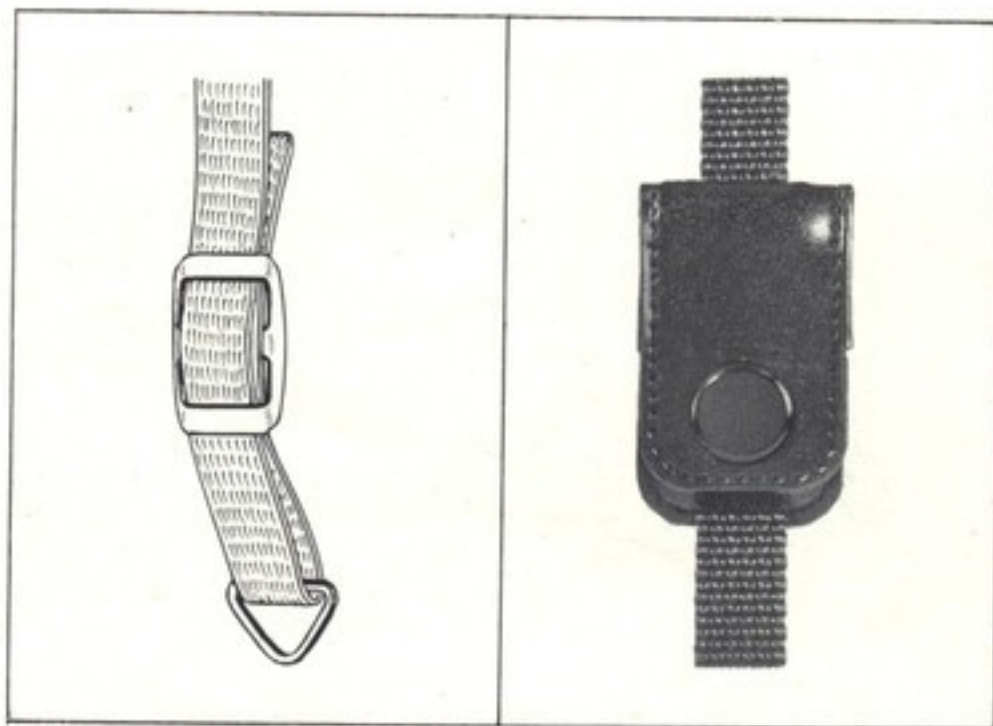
カメラを取扱うときは安全な場所で行なって  
ください。

カメラは「落下重傷・冠水死亡」と一口に言  
われているほど精密な機械です。

取扱いには十分な注意が必要です。

### 2 レンズの取付け

- レンズのダストキャップ(うしろ蓋)はバヨネットリングを矢印の方向に回してはずします。





カメラの Canon の彫刻の下にある赤点（各部分名称⑧）とバヨネットリング上の赤点とを合わせ、レンズを強く押込みながら、バヨネットリングを右回しに回してカメラにレンズを取付けます。

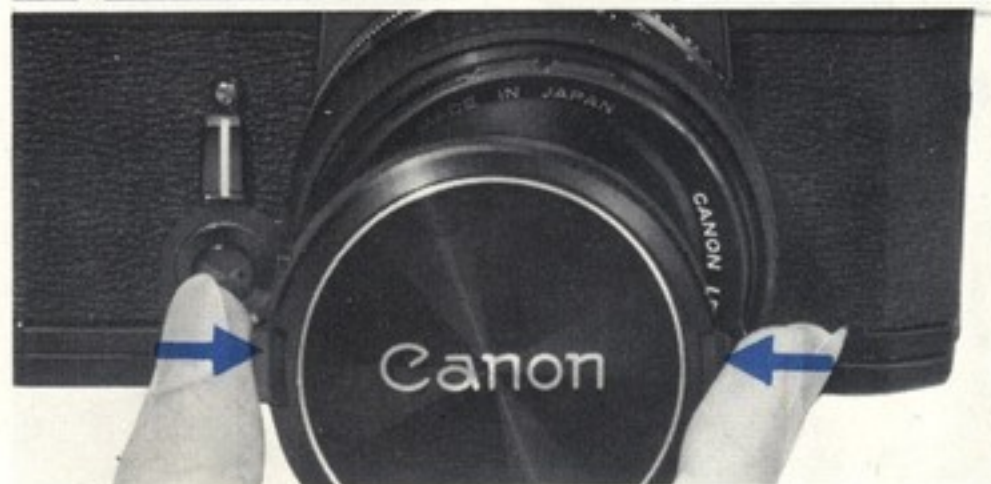
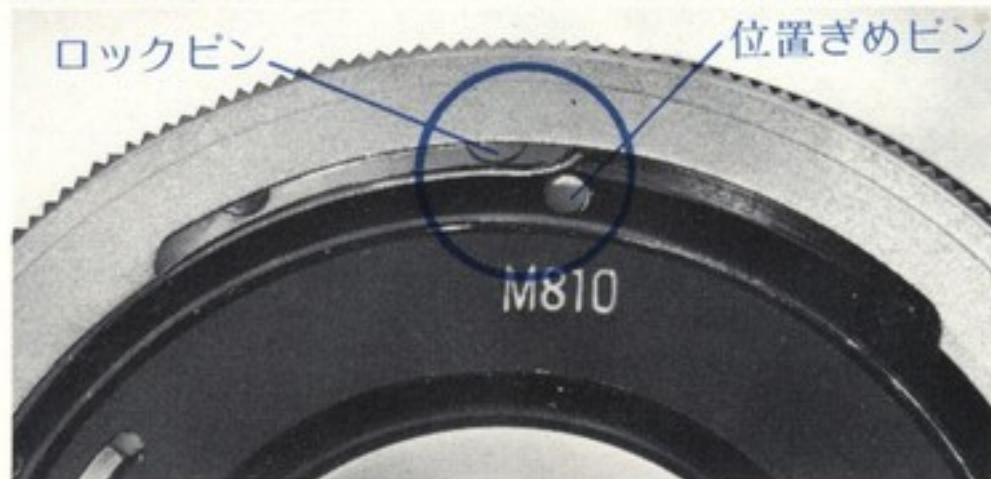
このあと緑色マークになっていることを確認してください。

ダストキャップを外すとバヨネットリングはロックされ、カメラに取付けないかぎり回せません。また絞りリングを回しても絞りは作動しません。

絞りの具合を調べたり、バヨネットリングを回したりするときは、位置ぎめピンの上側にあるロックピンを細いピンなどで押し下げてロックを外して行なってください。

### 3 レンズキャップ

レンズキャップ(レンズ蓋)は両側のつまみを押し込みながら取りはずします。





#### 4 電池の装填

カメラを逆さに置きます。カメラの底の部分に電池を入れる所が2箇所ありますから硬貨などを利用して蓋をはずします。水銀電池の小さな突起のある面(⊖側)を内側にして、蓋をします。

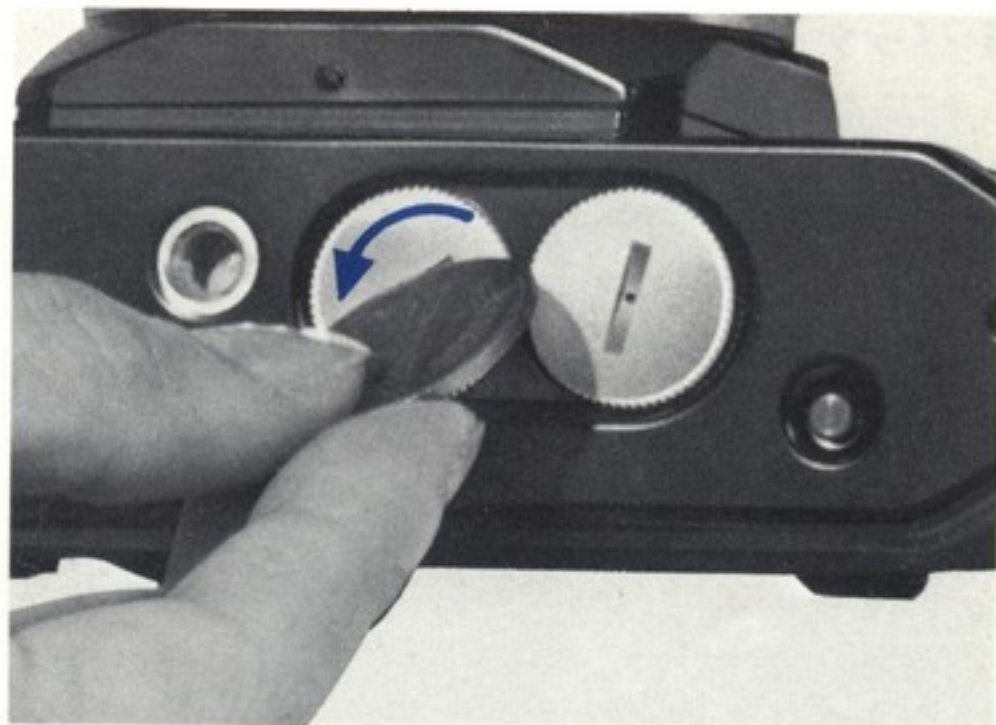
水銀電池の入れる方向を間違えると蓋はしまりません。

カメラを使用しない時、電池は必ず抜きとっておいてください。

##### 新しい水銀電池をお求めの際のお願い

現在有機水銀による公害が問題になっていますが、カメラに使用している水銀は無機水銀で、直接的な害はありません。また密封されているため、外部に水銀が出ることもありません。しかし特殊な条件下では有機化する可能性もありますので、新しい水銀電池をお求めの際は、使用済みの水銀電池と引き換えのうえお求めください。

絶対に捨てないようお願いします。





## 5 バッテリーチェック

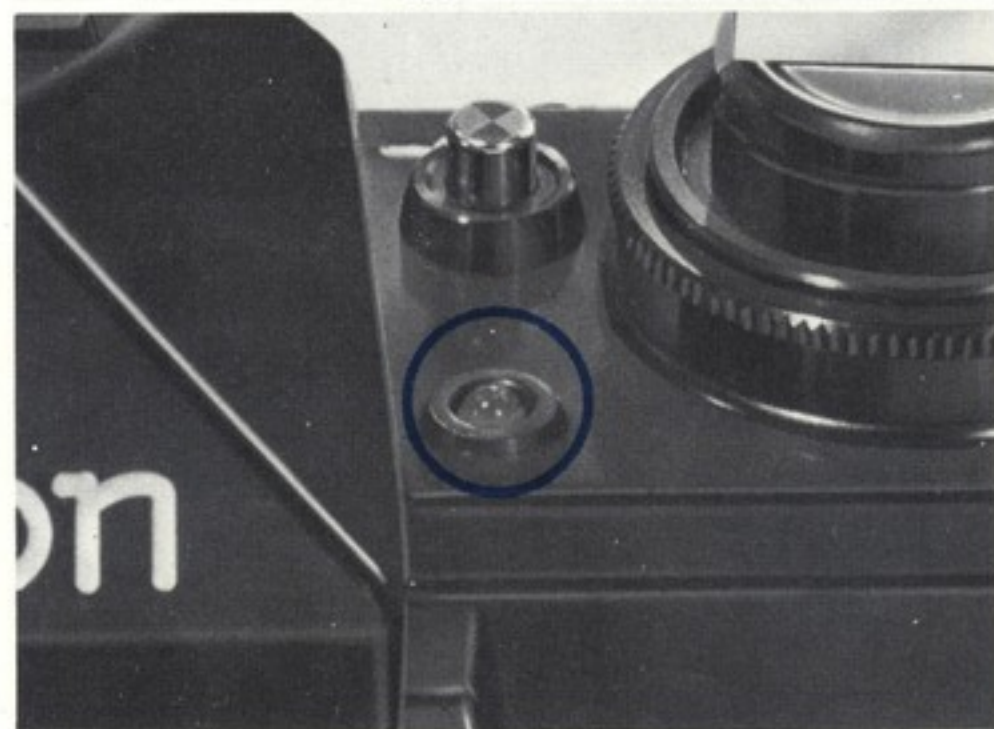
新品の電池を入れた場合でも、一応バッテリーチェックを行なってください。カメラ底部にあるバッテリーチェックボタン(各部名称⑳)を押します。

このボタンを押してバッテリーチェッカー兼長時間露出指示ランプ(各部名称㉑)が点滅する場合は、その電池の使用は可能です。電池がなくなっている場合は押し続けても点滅しません。

その場合は電池の交換をします。

電池交換は、同一銘柄のものを2箇同時に行なってください。

バッテリーチェックはカメラの使用前に必ず行なって、電圧の有無を確かめる習慣をつけてください。電池はどこでも入手できて経済的なHD型水銀電池です(JIS：日本工業規格)。外国製ではMALLORY PX625, EVEREDY EPX625がこれに相当します。





## 6 巻上げレバーの取扱い

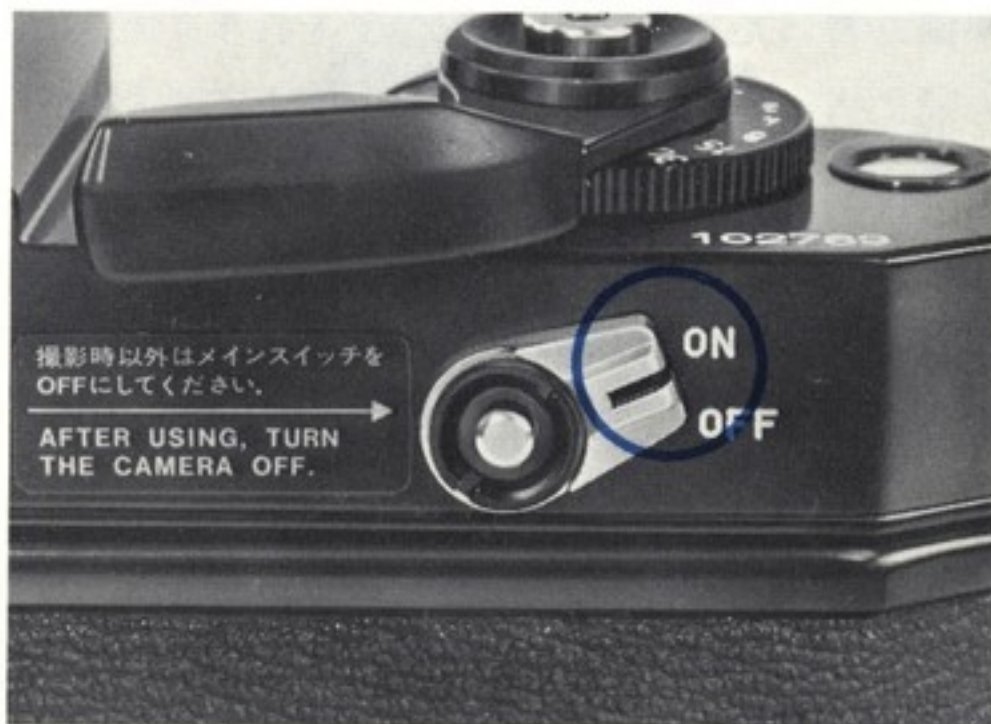
メインスイッチを ON にすると巻上げレバーはわずかに飛びだし（巻上げ予備角 $13^{\circ}$ ）、フィルムの巻上げが可能となります。

カメラを使用しない時はメインスイッチを OFF にし、巻上げレバーを押込んでメインスイッチが OFF になっていることを確認します。

巻上げレバーはメインスイッチが OFF の状態でないと格納できません。

また、格納の確認のためにメインスイッチ・オン・シグナルがついています。(各部名称⑤)

- メインスイッチを OFF にすると、フィルムが巻上っていてもシャッターボタンは押せません。安全機構が組込まれています。
- メインスイッチが ON のままカメラをケースに収納したり、暗い場所に放置しておくとも水銀電池の消耗が最も激しくなります。





## カメラの構え方

準備が終わったら次にフィルムを入れますが、その前にカメラの構え方を練習してみてください。出来上がった写真を見て、ピントが悪いと判断されたものが実はカメラブレという、シャッターを押した瞬間にカメラが動いたための失敗であることが意外に多いことはよくいわれることです。

これはカメラの構え方に問題があったわけですが、構え方さえ安定していればしっかりした写真が得られることになります。

一般にカメラは横に使う場合(横位置)と縦に使う場合(縦位置)の2通りがあります。

カメラの握り方、構え方は写真の通りですが、気を付ける点を以下に述べておきます。

反復練習してください。

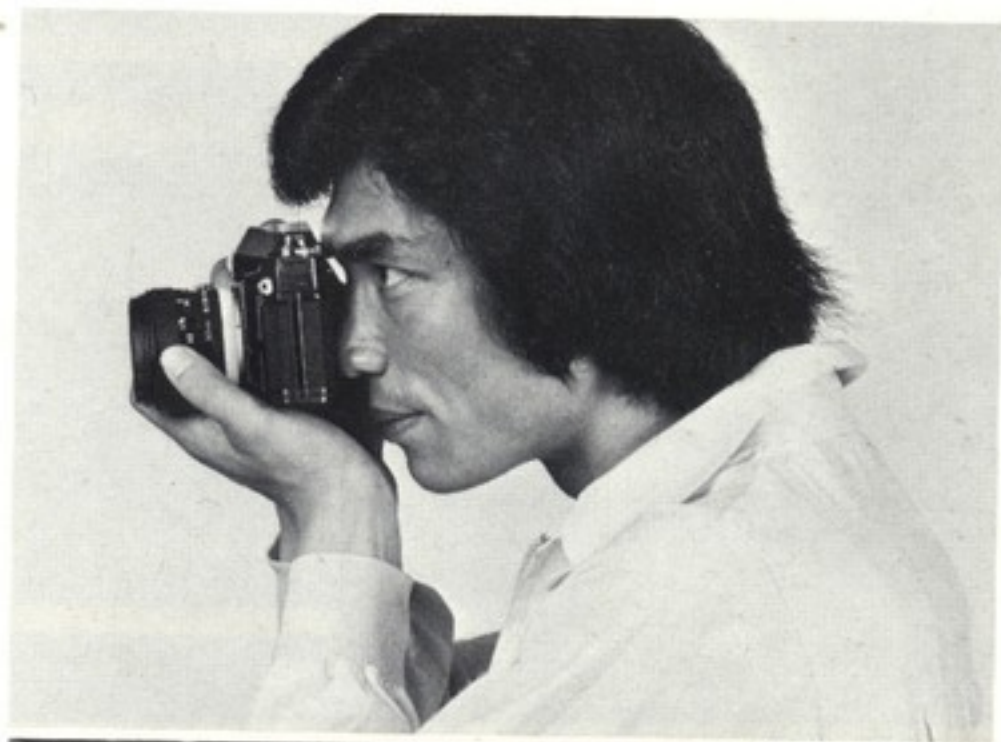
1. できるだけ深くカメラを握りますが、握り方に余裕をもってください。
2. カメラを頬または額にあてて固定します。
3. 左手はカメラの支えにしますので、ひじ(上

膊部)をできるだけ体に押しつけて安定させます。

4. フィルム巻上げは右手の親指、シャッターボタンは右手人差指の腹の部分を使います。シャッターボタンはできるだけ静かに押しします。(シャッターボタンの押し加減がカメラブレに大きく左右します)
5. 木や柱があるときは寄りかかるなどして利用するのも良策です。









## 撮 影

### 1 フィルムを入れます。

使用するフィルムは市販の日中装填用パトローネ入り 35mm 判フィルムです。12枚・20枚・36枚撮りがあります。

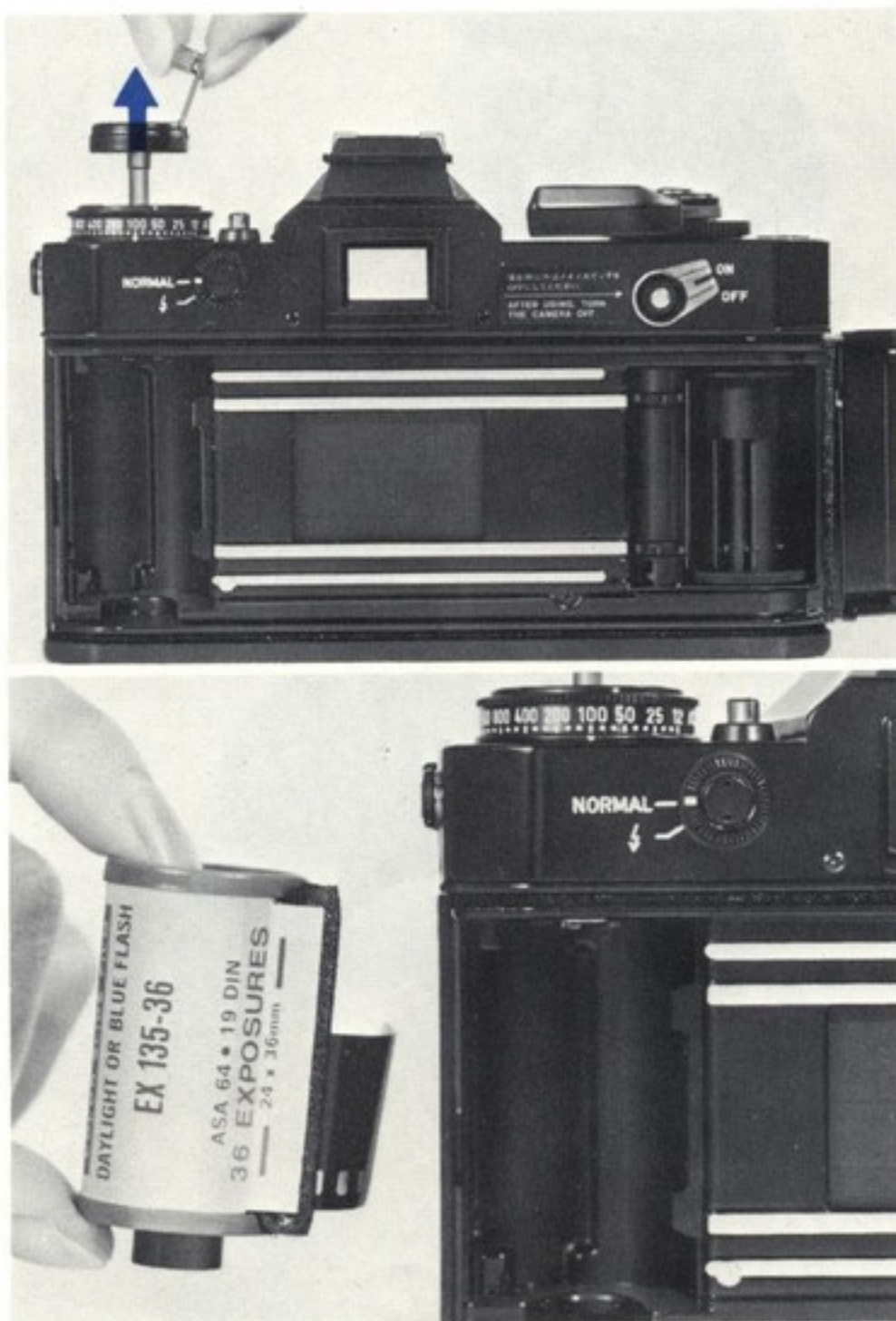
#### ●裏蓋を開きます。

巻戻しクランク（各部名称⑭）を上方に引上げると裏蓋が浮き上りますから手で開いてください。

巻戻しクランクは一杯に引上げた状態にしておきます。

#### ●フィルムをつめます。

パトローネの軸の長い方をカメラの下側になるようにパトローネ室につめます。巻戻しクランクを押下げてパトローネがはずれないようにします。



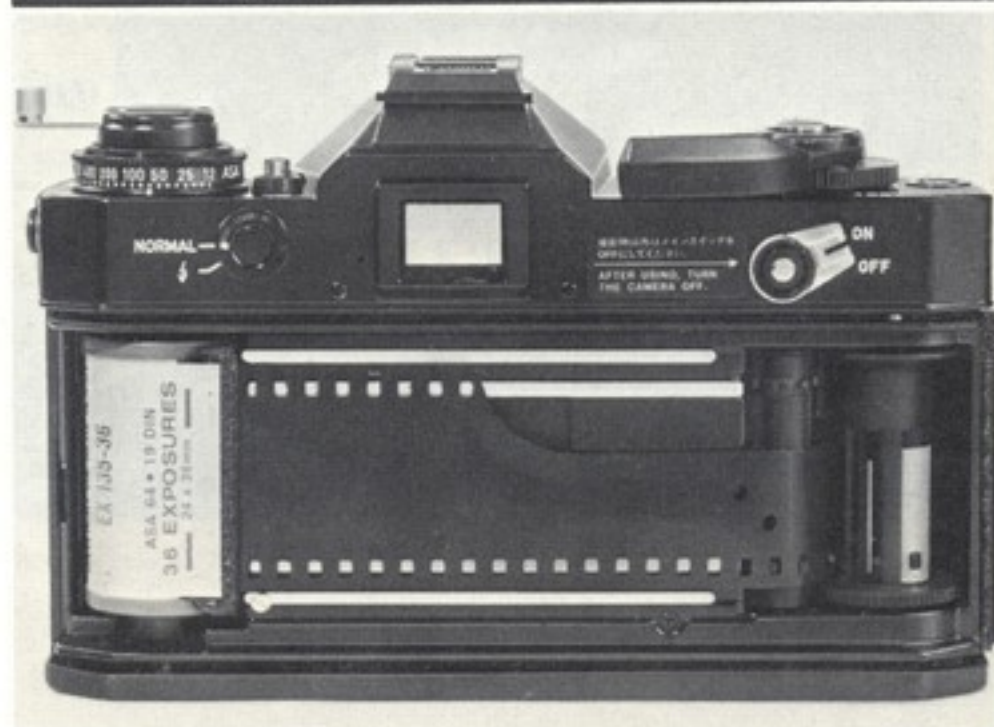
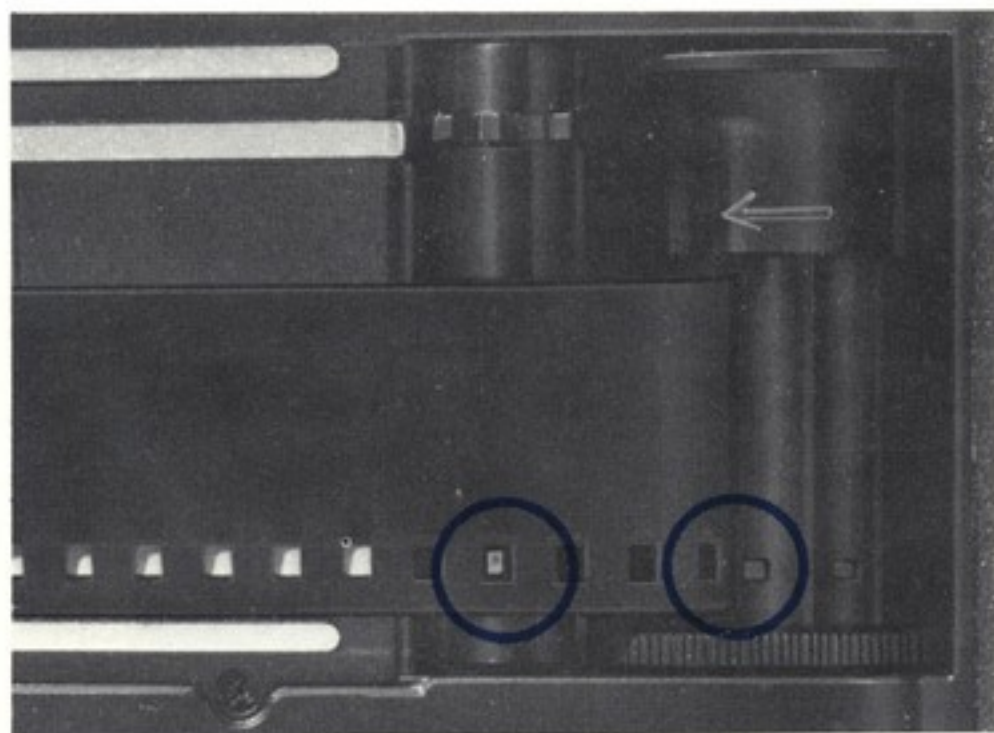


- フィルムを少し引出し，先端を巻取リスプールの差込み溝に差込み，巻上げレバーによってフィルムを巻上げます。

巻上げレバーは止まるまで(120度)回してください。小きざみに巻上げることはできません。

フィルムを巻上げる時にフィルムのパーフォレーション(フィルムの両側に並んでいる穴)が巻取リスプールにある爪とスプロケットの爪に掛かっていることを確認します。

- フィルムにたるみがなく，パトローネが浮き上っていないことを確かめてから蓋を閉めます。

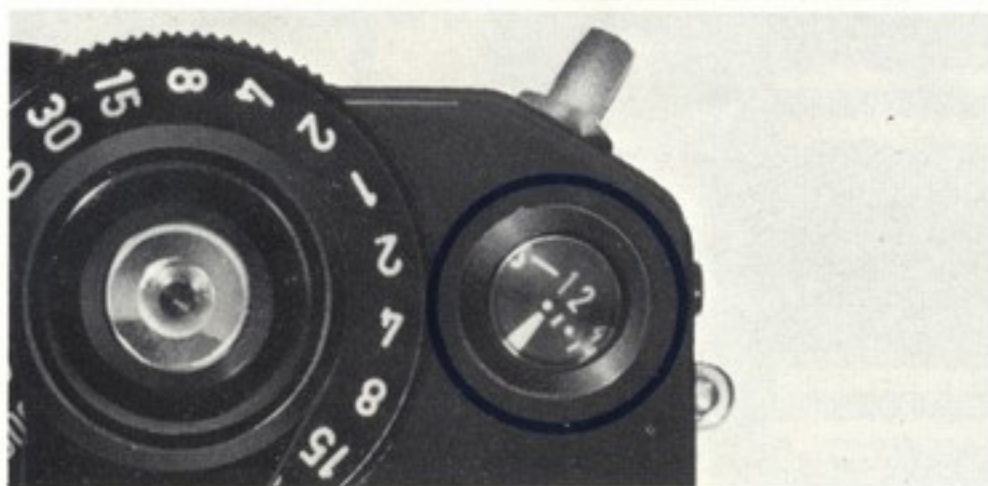
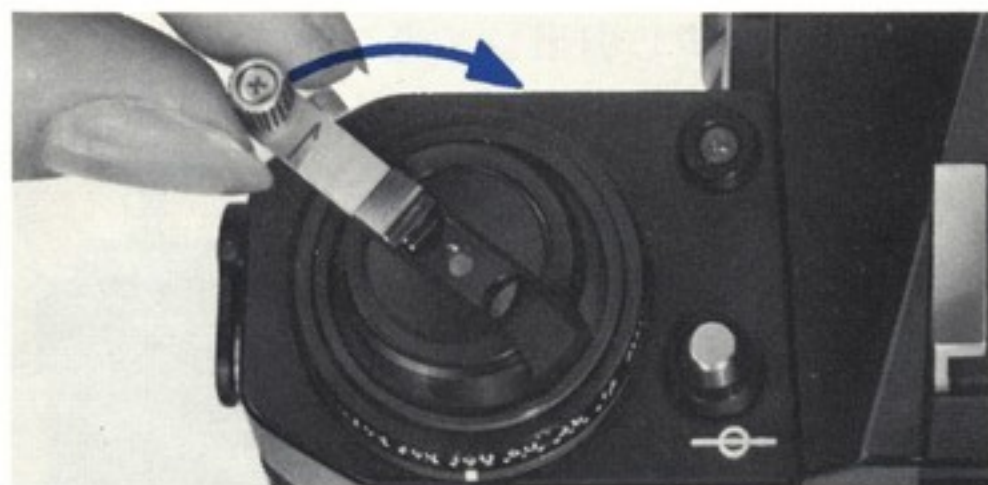




- 巻戻しクランクを軽く矢印の方へ止るまで回します。これはパトローネ内のフィルムのたるみを取るためです。
- 巻上げレバーでフィルムを巻上げます。レバーは一回で一杯巻上げてください。巻上げができなくなるまで(3回)繰返してください。この間巻戻しノブが回転していればフィルムは正しく装填されています。

通常のカメラに行なう空写し操作がこのEFでははぶかれています。巻上げレバーが動かなくなれば、その時点で撮影OKです。この時フィルムカウンター(各部名称①)は1を示しています。フィルムカウンターは1枚撮影し、1回巻上げる毎に1目盛前進します。

フィルム装填は直射日光のあたらない屋内や木陰で行ないます。





## 2 フィルム感度(ASA)をセットします。

フィルムの装填が終わったら直ぐ、そのフィルムのASA感度をカメラにセットします。巻戻しクランクの下側にあるフィルム感度セットリング(各部名称⑮)をつまみ上げるとリングを回転させることができます。

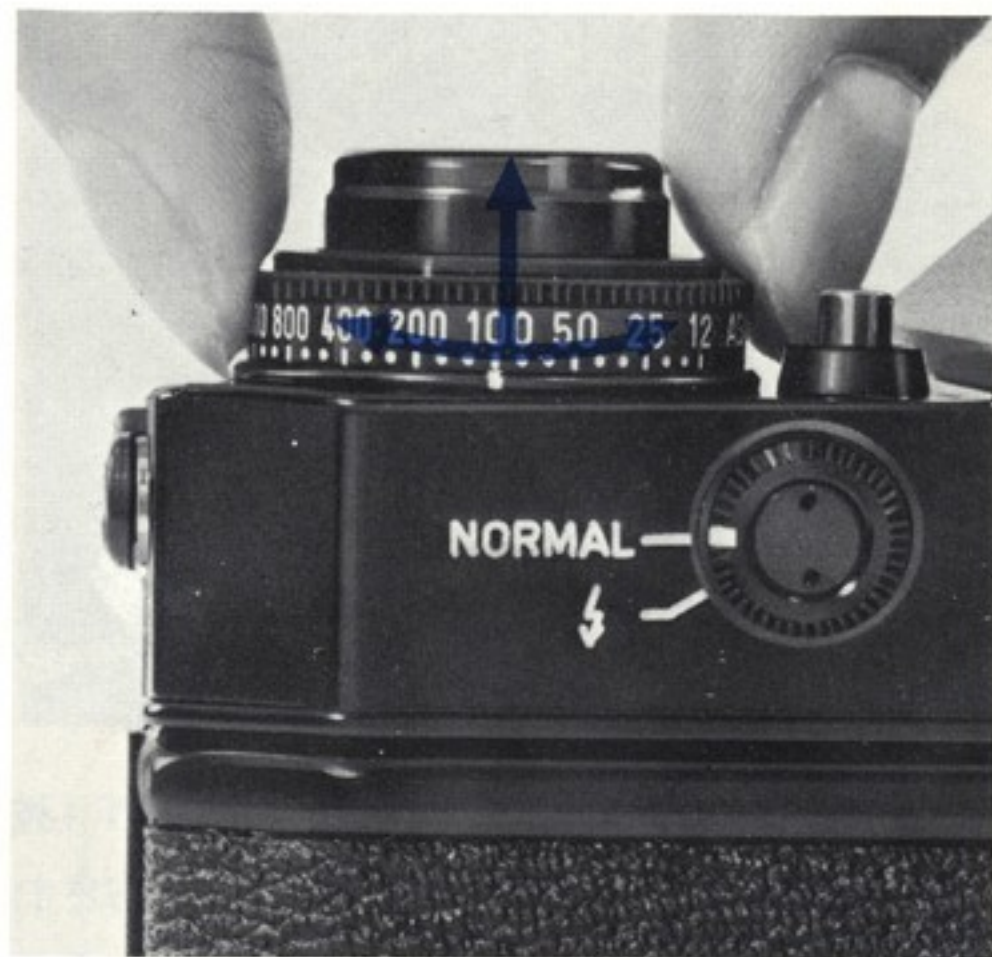
フィルムの箱には必ず **ASA** と記入してありますので、その数字と同じ数字を感度セットリングの指標にセットします。

フィルム感度とは、フィルムが光に感ずる速さを数字にしたもので、国内のフィルムではASA 100が一番多いようです。

この感度セットリングの数値(使用できるフィルム感度)は次の表の通りです。

ASA	12	•	25	•	50	•	100	•	200	•
	(16)	(20)	(32)	(40)	(64)	(80)	(125)	(160)	(250)	(320)
	400	•	800	•	1600	•	3200			
	(500)	(640)	(1000)	(1250)	(2000)	(2500)				

(中間の点はカッコ内の数値に相当します)



フィルム感度のセットはカメラの露出決定の基本となるものですから間違いのないよう確実にセットしてください。



3 レンズの絞りリングが緑色マークであること、キャッツ切換えスイッチがNORMALであることを確認します。

この操作は最初に行なったことですが、もう一度確認してください。

このカメラを取扱う上で大変重要な事柄です。使用中も時折り確かめてください。

4 シャッタースピードを決めます。

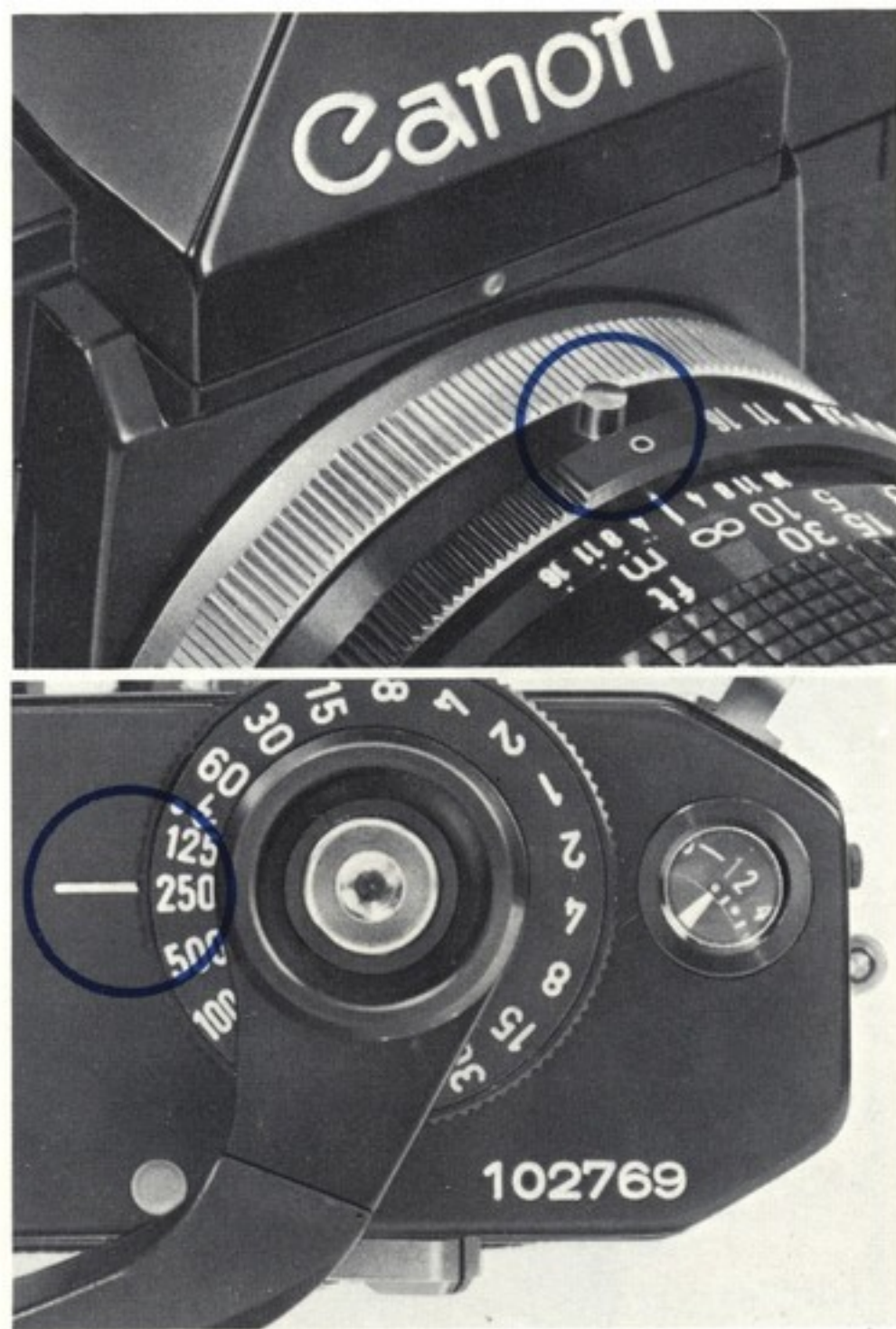
シャッターダイヤル(各部名称②)を回してシャッタースピードを調節します。

このシャッタースピードは写したいもの(被写体)の動きの速さ、明るさなどに左右されますが、慣れていない方は一般的な次の数値にしてください。

(曇の天候または動きの遅いもの)  $\frac{1}{125}$  ~  $\frac{1}{500}$  (晴天または動きの速いもの)

(室内)  $\frac{1}{60}$  ~  $\frac{1}{125}$

$\frac{1}{30}$ 秒以下になるようでしたら、カメラブレが起りますので、三脚使用かキャッツ撮影(41





頁参照)をおすすめします。

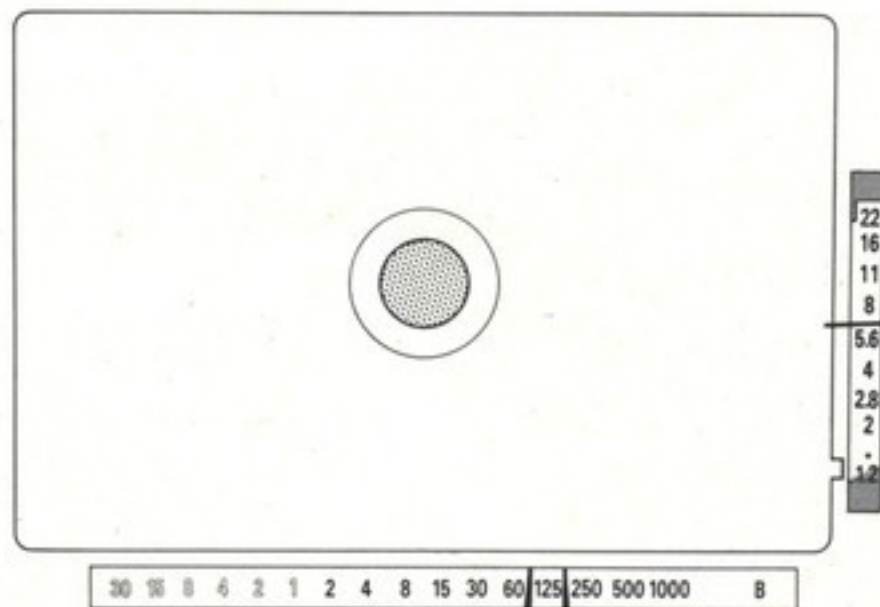
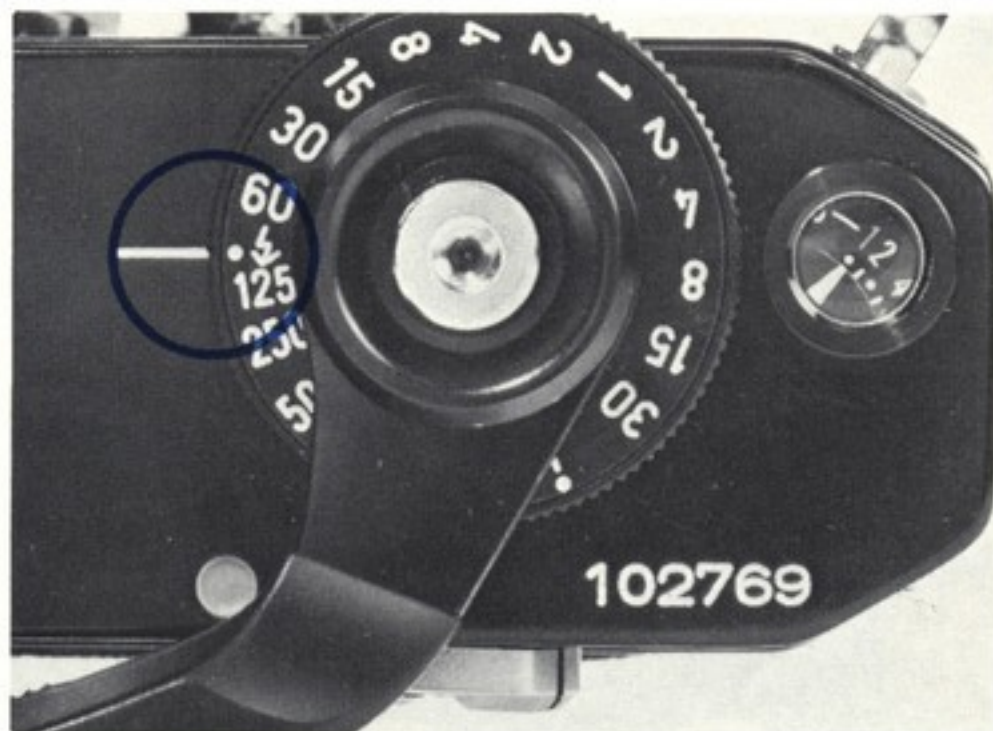
ファインダー接眼部(各部名称③)からのぞいて見えるファインダーの中の下側のシャッタースピード表示枠にシャッターダイヤルでセットした数値が出ます。そのシャッタースピードに対応した絞りが右側の針で示されます。カメラを写すものに向けたときこの針(メーター指針)が上・下端の赤枠内に入るとしたら、そのシャッタースピードは不適當です。シャッターダイヤルを回してメーター指針が上下の赤枠の間に位置するように調節してください。

最小絞り数値は常時F 22となっていますので、F 16の最小絞り値を持つレンズを使用した場合は注意してください。

シャッタースピード目盛はクリックの位置で使用します。

$\frac{1}{25}$ 秒は $\cdot\frac{1}{4}$ の所に合わせてください。

これはX接点と共用です。





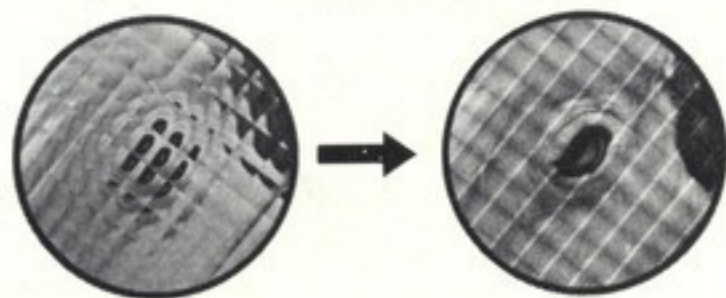
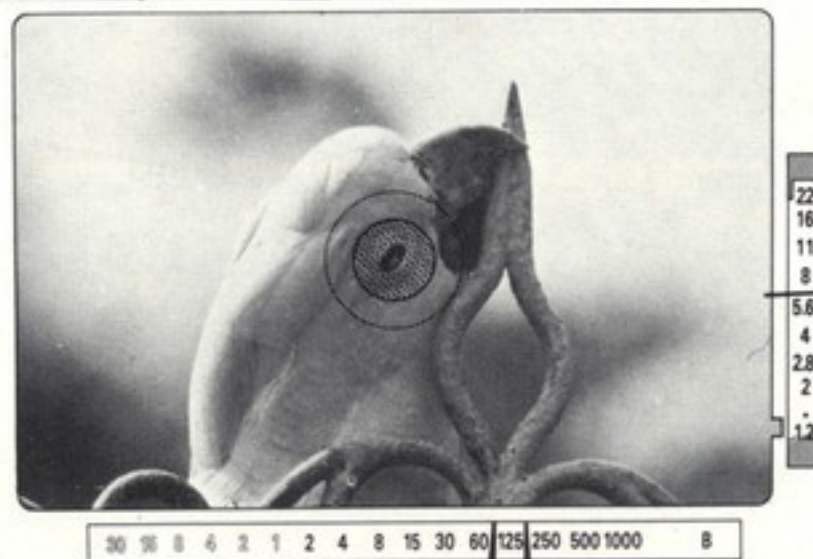
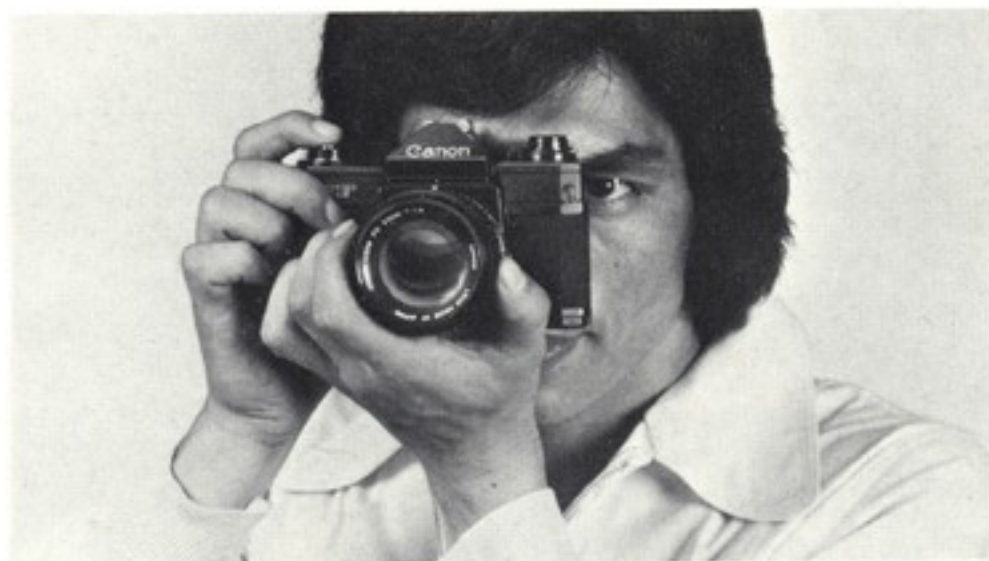
## 5 ファインダーをのぞきピントを合わせます。

ファインダー接眼部に目をつけるようにしてのぞき、写そうとするもの(被写体)にカメラを向けます。

ファインダーの中心部にある丸形の範囲内のチラつきがなくなるよう、レンズのフォーカシングリング(各部名称⑳)を回して調節します。

チラつきがなくなったときが被写体にピントが合ったときです。ピント合わせはこの丸い範囲内だけでなく、ファインダー内全体でピント合わせをしても差しつかえありません。

- 逆光の時には特にレンズフードをつけることをおすすめします。



ピントがはずれている

ピントが合っている



**6 シャッターボタンを静かに押します。**

シャッタースピード優先のカメラですから、絞りはその時点に合った条件の値を自動的にカメラが決めます。

**7 メインスイッチをOFFにします。**

続けて撮影しない時はメインスイッチをOFFにします。

このカメラに装填してある電池はONにしたまま放置した場合、条件によっては数日でなくなります。できる限り撮影寸前にONにし直後にOFFにするよう習慣づけてください。スイッチがONである限り、レンズキャップをしても電池の消耗は防げません。





## 8 フィルムの巻戻し

撮影枚数はフィルムカウンターでわかります。装填したフィルムが全部撮影されると巻上げができなくなりますから、フィルムを元のパトローネに巻戻します。

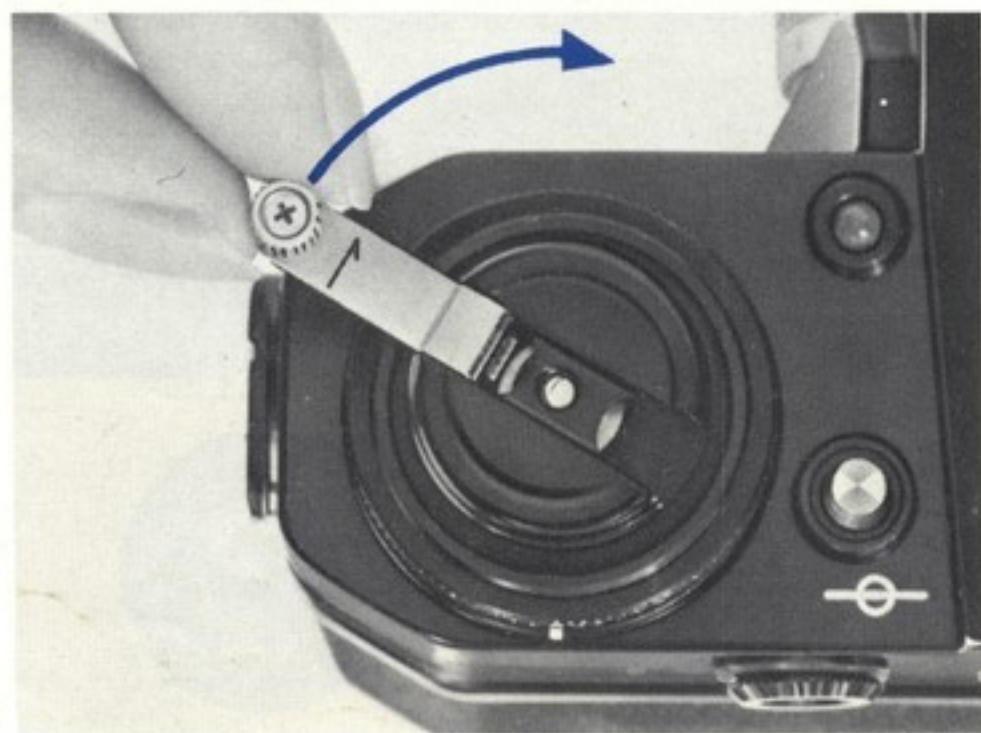
操作方法は、カメラ底部にある巻戻しボタンを押し、巻戻しクランクを矢印の方向に回すと巻戻せます。

巻戻し中抵抗がなくなって軽くなり、巻戻しボタンの回転が止まったら裏蓋を開いてフィルムを取出します。

以上の8項目の手順を覚えていただければ、写真に初めての方でもキヤノン EF によって立派な写真を撮影することができます。

一通りの撮影方法をご理解いただけましたら、この EF をより効果的に、かつ発展的にご使用いただけるよう、次頁からの実技解説編をお読みください。

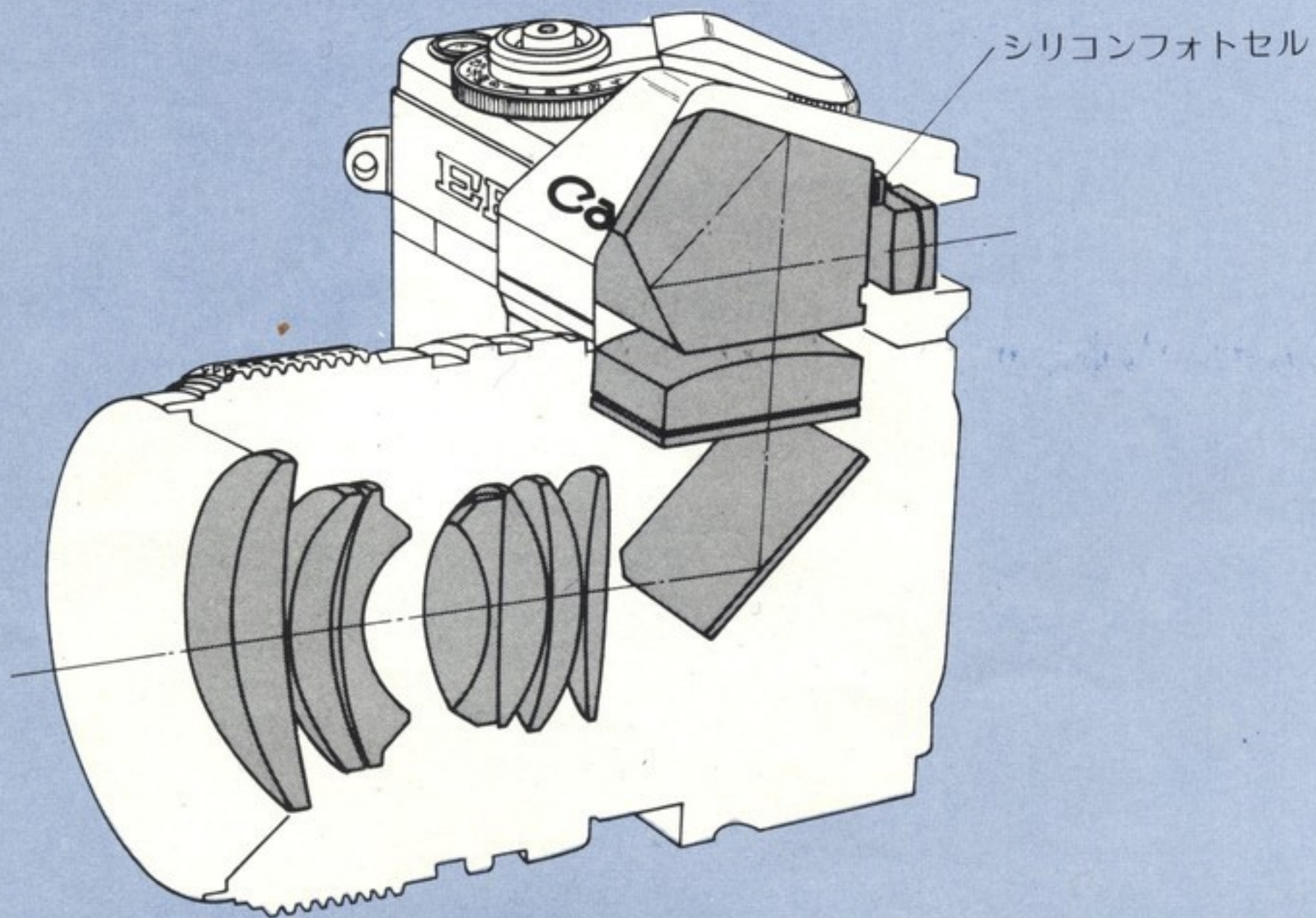
フィルムの巻戻しをしないうちは絶対に裏蓋を開けないよう注意してください。













## 機構の解説

### 1 ファインダー情報

ファインダーをのぞくと視野中央に距離計、視野外下部にシャッタースピード情報、視野外右側に絞り情報があります。

中央のマイクロプリズム距離計以外は視野内に入らないよう、すっきり整理してファインダー本来の姿に近づけています。

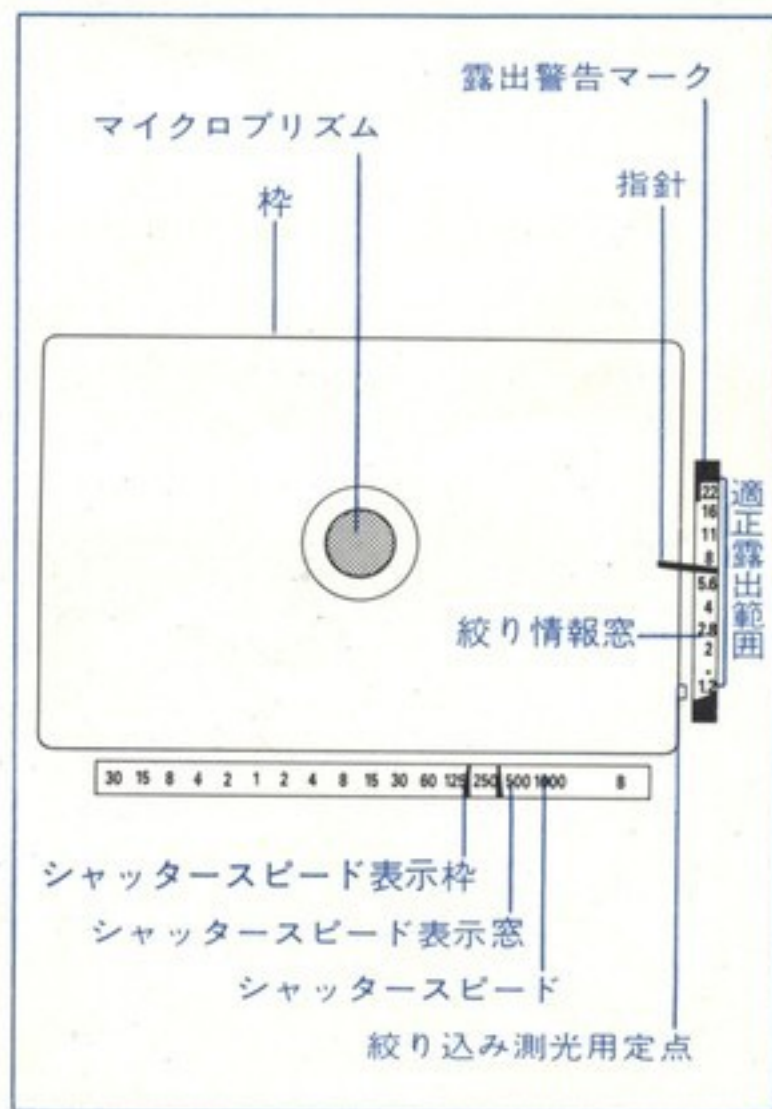
シャッタースピード情報はシャッターダイヤルと同じ数値をL形指針で示します。したがってファインダーをのぞきながらシャッタースピードの調節ができるわけです。

絞り情報はFDレンズを取付けるとレンズの開放信号ピンによって絞り情報窓の絞り数値表示板が移動し、正常の絞り位置を示します。

したがってF値の異なるレンズを交換しても自動的に絞り数値は変更されます。

レンズをはずした状態またはFLレンズなど開放信号ピンの付いていないレンズを取付け

た際には正しい絞り表示は得られません。絞り情報窓にてている絞り数値とは無関係に絞り込み測光用定点によって測光してください。(絞り込み測光方式)





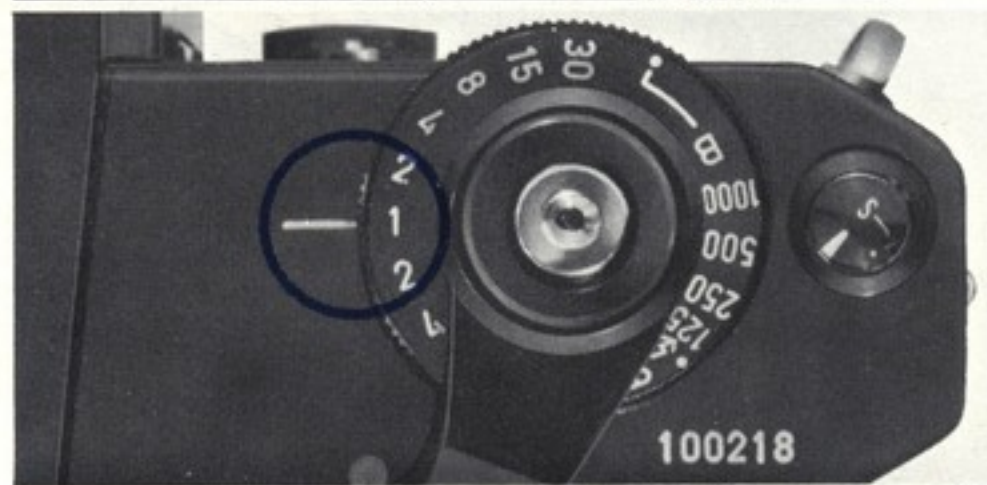
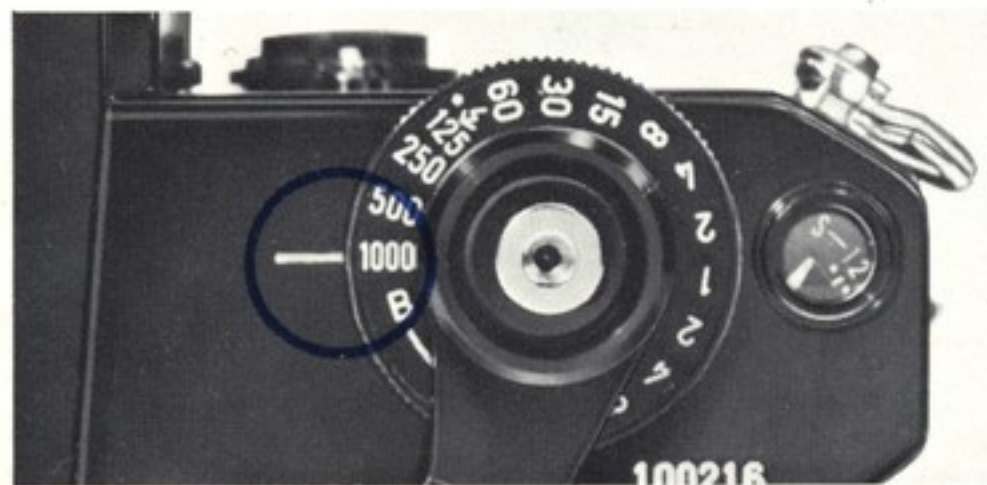
## 2 シャッター

EFのシャッターは上下走行式メタルフォーカルプレーンシャッターを採用しています。シャッター制御方式はB・ $\frac{1}{1000}$ ～ $\frac{1}{2}$ 秒の高速側がメカニカル制御方式、1～30秒の低速側がエレクトロニク制御方式となっており、最高の精度を有効に保つことができます。

とくに $\frac{1}{1000}$ ～ $\frac{1}{2}$ 秒のメカニカル制御部分は、電池が使えなくなった場合でもAEを解除(レンズの緑色マークをはずす)すれば、手動絞り撮影ができます。

1～30秒のエレクトロニク制御の場合、シャッターリリース中バッテリーチェックランプ(各部名称⑬)が点滅します。

このバッテリーチェックランプは発光ダイオードが使用されています。



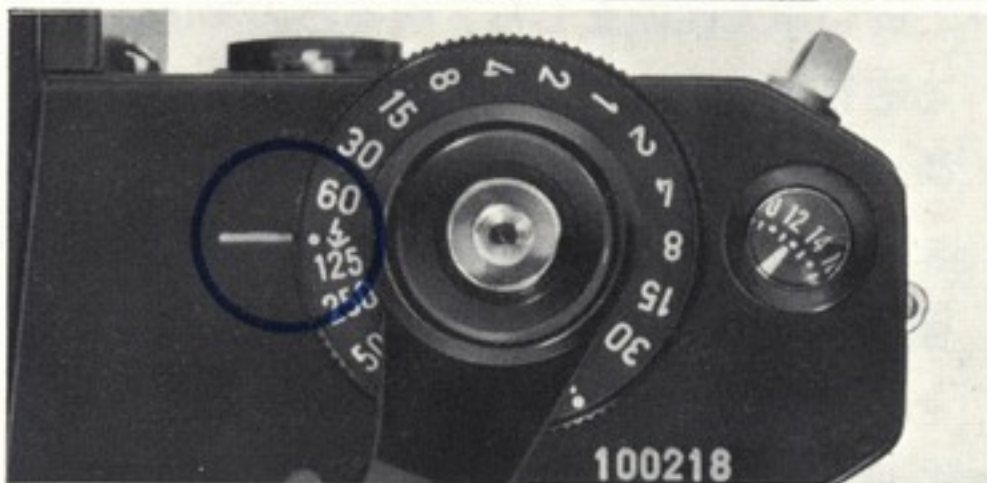


このバッテリーチェックランプは大変鋭敏な回路をもつため、何らかの電氣的接触（たとえばスピードライト着脱時、スイッチ類切換え時、電池着脱時など）のさい点灯する時もありますが機構的には何ら異常ではありませんので覚えておいてください。

シャッタースピード優先方式を採用しています。この方式の採用によりカメラブレを最少限に食い止めます。

カメラに慣れてくると、撮影する時にセットしたシャッタースピードで、どの程度ブレに対処すべきかを瞬間的に判断することができるようになるため、シャッターチャンス逃がすことなく、ブレのない写真を作ることができます。動きの速い被写体、明暗の変化の激しい被写体の追求には、この特徴はますます発揮されますから速写性、機動性を必要とするさいの撮影には最適のカメラといえます。

- X接点は $\frac{1}{25}$ 秒です。（CATSの項参照）





### 3 露出決定機構

#### ●シリコン フォト セル

受光素子として EF はシリコンフォトセルを使用しています。

これは従来の CdS とは異なった新しい受光素子で、CdS の 15EV 段階に比べて 21EV 段階と広い測光範囲をもち、明るさの変化に対する応答性も CdS に比べて数倍の速さをもつ特徴があります。

また、増幅域の広い増幅器の新開発によって極微出力のシリコンフォトセルを使用することができたことも見逃がすことができません。

#### ●シリコン フォト セルの位置

シリコンフォトセルはファインダー接眼部に接近して配置されています。

画面内における測光感度分布は、中心横広がり分布した中央部重点の平均測光方式となっています。

#### ●測光範囲

この EF の測光範囲は、EV - 2 (ASA 100・F 1.4・8 秒) より EV 18 (ASA 100・F 16・ $\frac{1}{1000}$  秒) ですが、EV - 2 の明るさは一眼レフのファインダーで測距できるほぼ限界です。したがって ファインダーで測距できる被写体は必ず適正露出で撮影できるという大きな特徴をもっています。

また応答の速さにおいては、通常の撮影では瞬時、微光量下でも測距している間にメーター指針が安定するほどで、ピント合わせ即ちシャッターリリースと、迅速な撮影ができます。

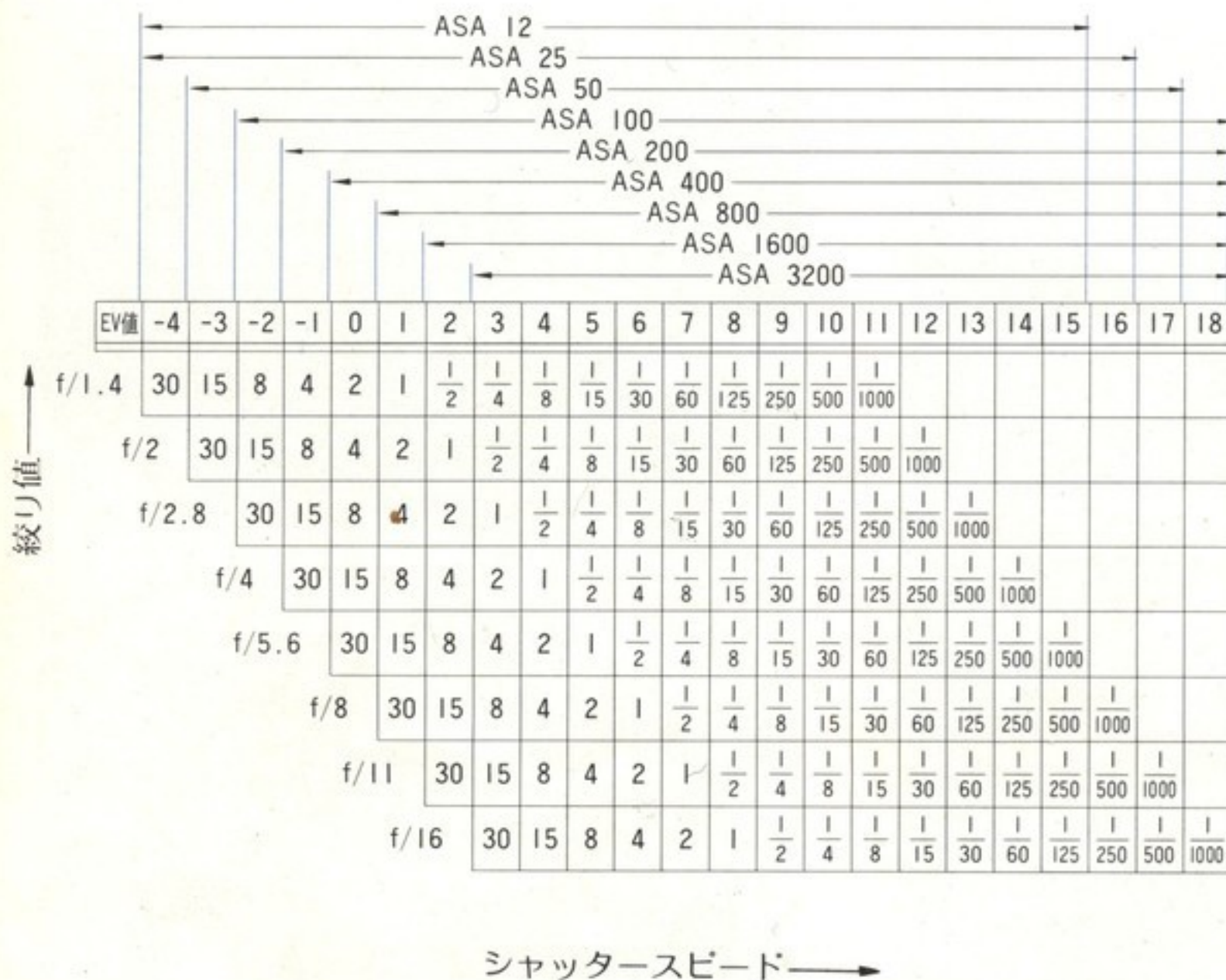
#### ●露出警告

ファインダーで見えるものはすべて適正露出で写りますが、絞り情報窓には上下に赤枠を設定し、不適正露出の場合は指針が赤枠内に入って警告します。

●微光量下では ASA 感度と明るさの組み合わせによっては EV - 3 以下などの露出計測定能力外で赤枠内に入らないことがあります。



# EV 値



キヤノン EF は FD 50mm F 1.4 レンズを使用した場合、フィルム感度によって次のように連動する測光範囲をもっています。

ASA	連動範囲
12	EV-4~15
⋮	
25	EV-4~16
⋮	
50	EV-3~17
⋮	
100	EV-2~18
⋮	
200	EV-1~18
⋮	
400	EV 0~18
⋮	
800	EV 1~18
⋮	
1600	EV 2~18
⋮	
3200	EV 3~18

EV 値とはシャッタースピードと絞り値の組合せによる露出量の値で、フィルム感度と外光の強さによってフィルムに与えられる露光量がきまってきます。



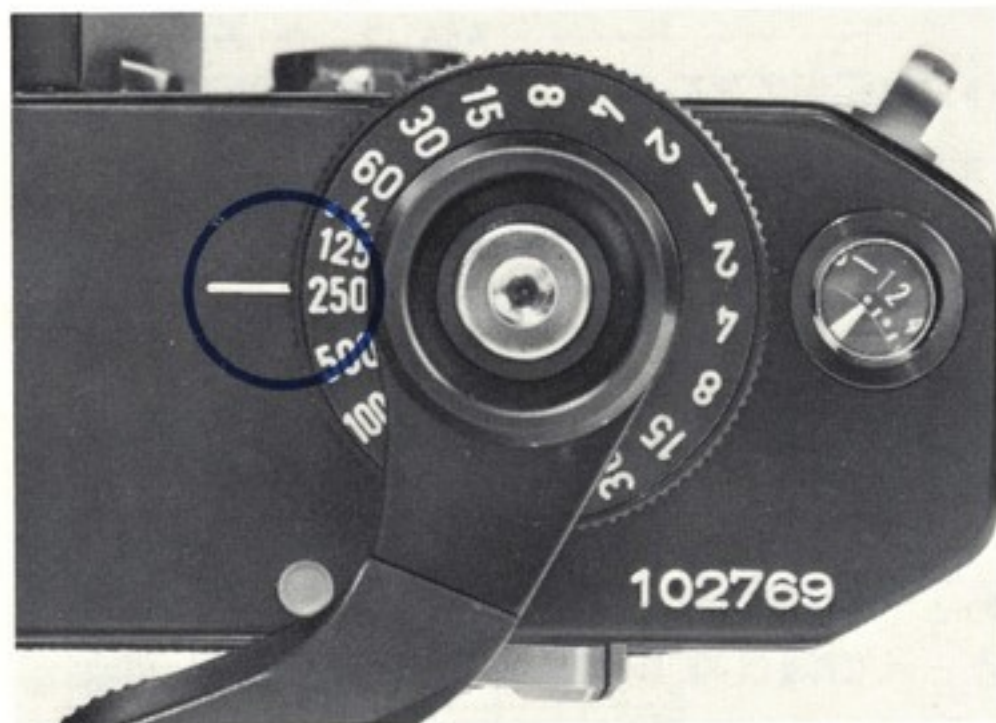
## シャッタースピード優先

特徴の項でも記してありますが、シャッタースピード優先はベテランになればなる程、活用範囲が広い方式といえます。

迅速・正確をモットーとするスナップ写真などはその代表的なもので、EFのシャッタースピード優先自動露出は撮影者のブレに対する知識と相まって、決定的瞬間を記録し易くしました。スナップをする場合、あらかじめシャッタースピードを $\frac{1}{250}$ ～ $\frac{1}{500}$ 秒位にセットしておけば、特に暗い部分でなければほとんど間違いなく適正な露出が得られますし、スナップの場合、ほとんどが広角系のレンズを使用しますので、容易にスナップが楽しめるわけです。

速い動きのスポーツ、動物、乗物などもシャッタースピードの決定が作品の質を左右する主要因ですから、この要因の選択が作者にゆだねられているということは、作者の意図を作品に反映することのできるカメラといえるわけです。

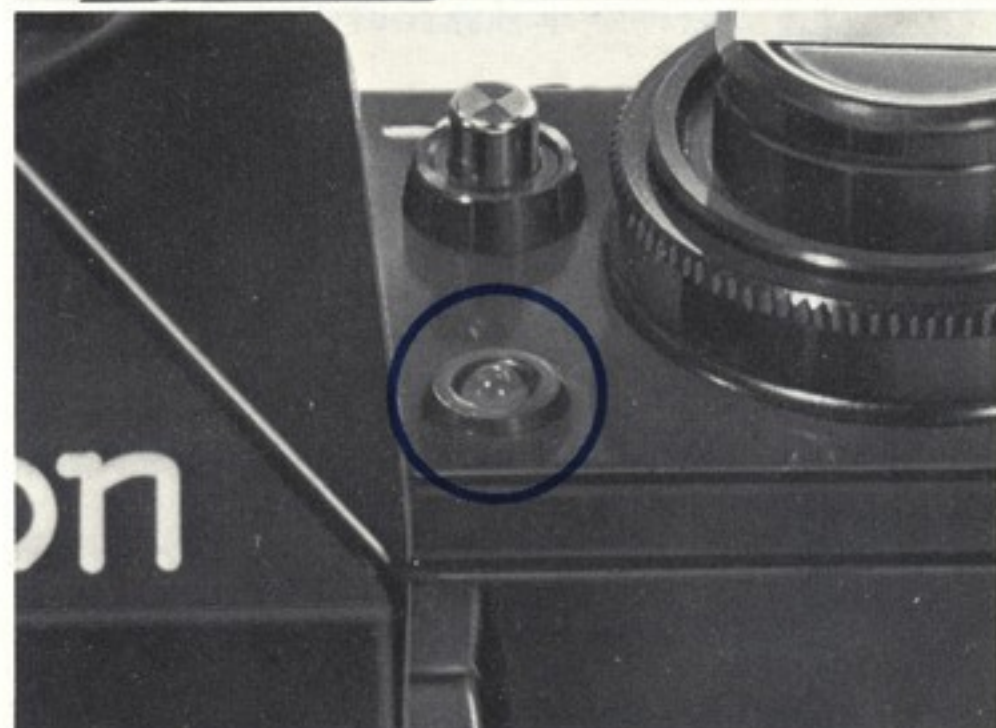
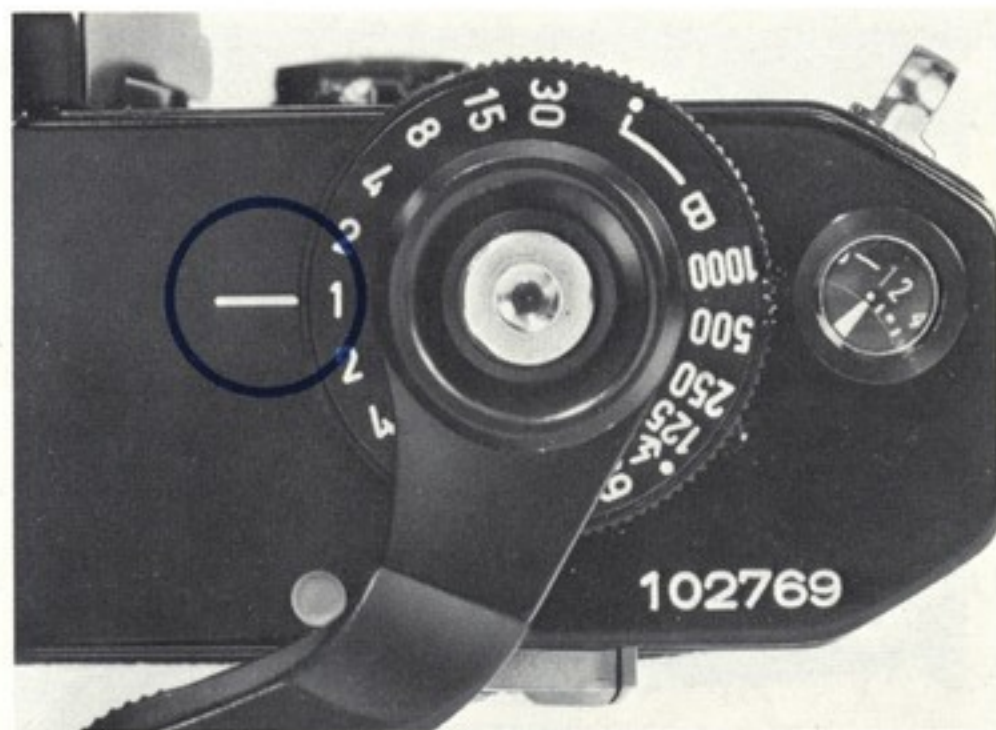
1～30秒の低速シャッターを使用する時は一般





的には三脚，リリースを用いますが，概して目がファインダーから離れている場合が多いことを考慮して，バッテリーチェックランプが赤く点滅してシャッターが作動中であることを表示します。

測光範囲がEV-2まで有効ということは，従来のカメラに使用した微光量測光用のブースターが組み込まれていると同じことで，ネオンや夜間撮影に特殊なカンや経験を必要としなくなりました。





## AE の解除

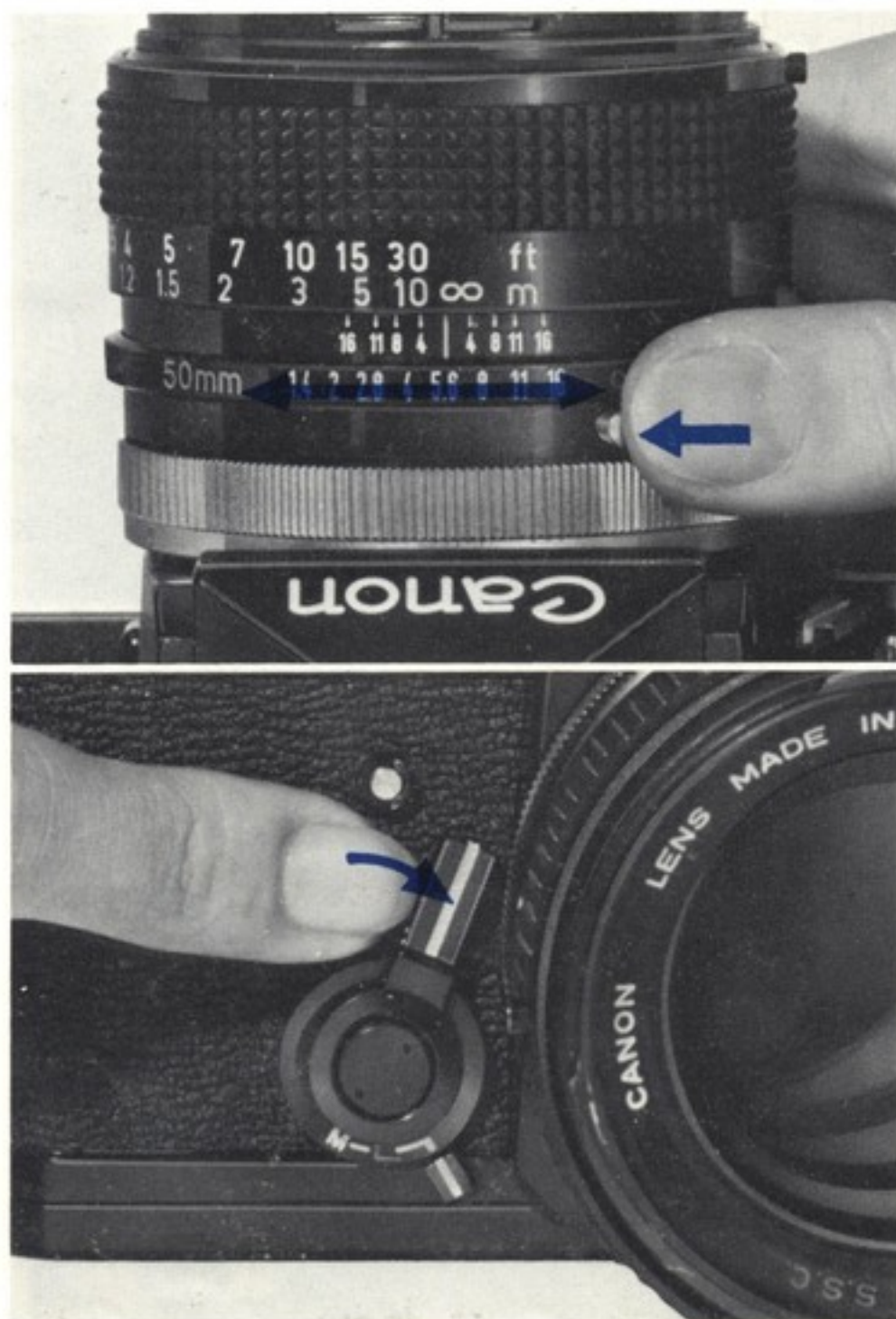
AE の解除とは緑色マークを解除して手動で絞りをきめて撮影することです。

レンズのEEロックピンを押しながら緑色マークを絞り数値側に回わせれば AE は解除され、EF は読取り式のTTL露出計内蔵カメラとなります。

絞り情報窓の指針が示している絞り数値を読取り、絞りリングを回して同じ絞り目盛にセットします。その時点の適正露出が得られます。

つまりカメラ自体が単独露出計の役割を果たすわけです。

露出量を自由に調節できるので逆光時や多重露出時などに使用できます。



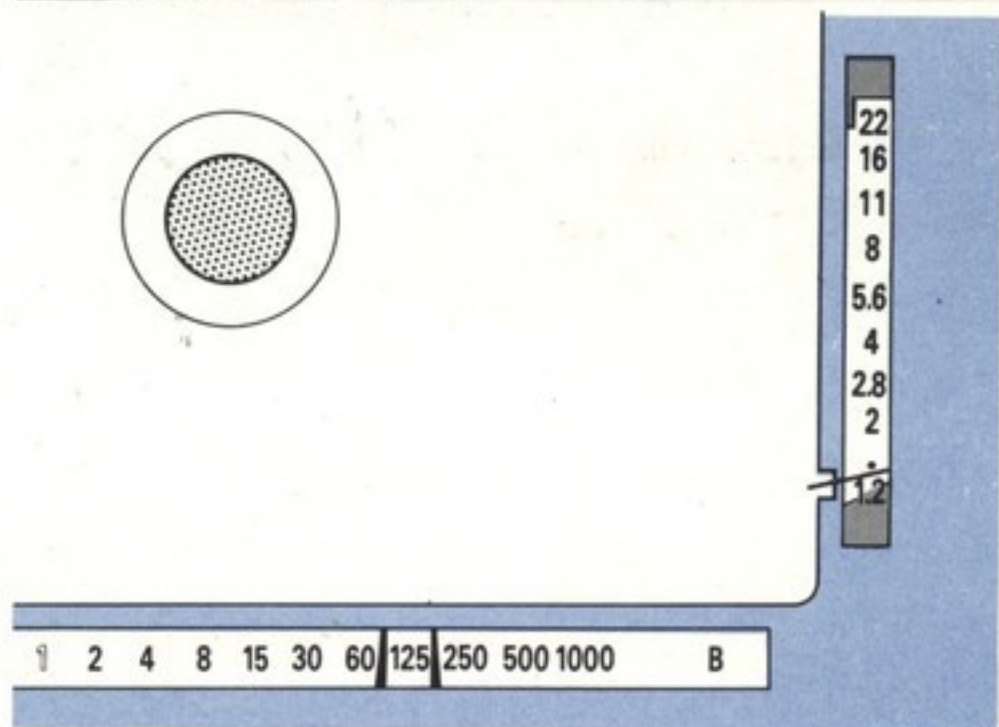
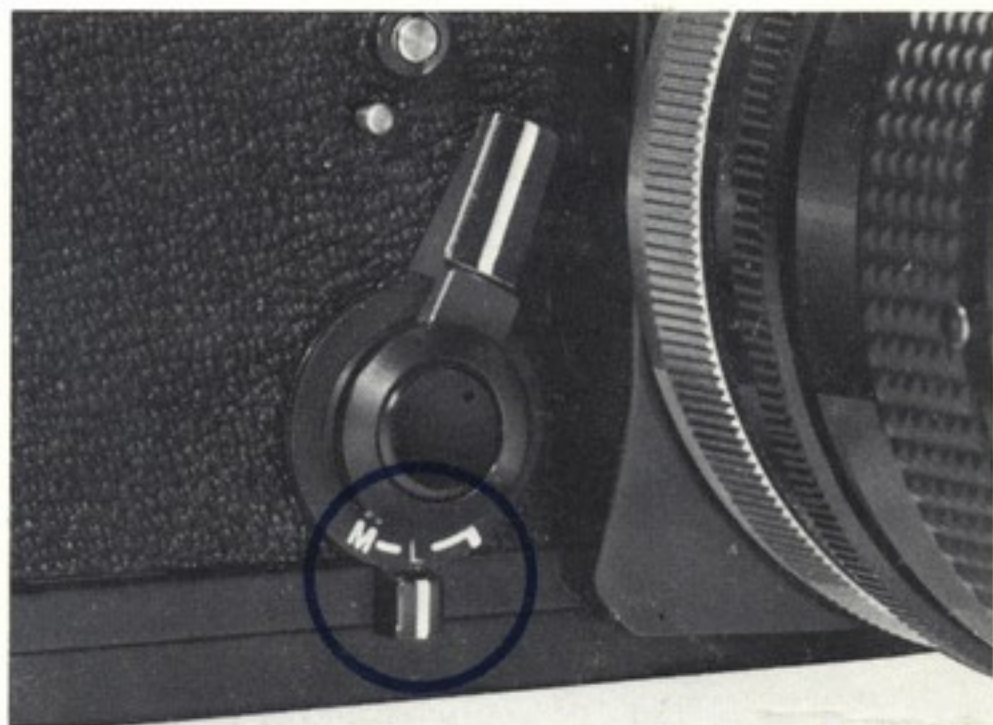


## 絞込み測光

FLレンズやFDレンズとペローズFLを併用して使用した場合、開放信号ピンがないために絞り情報窓の各絞り値は正しい値にセットされません。このような時には絞込み測光で露出値の決定を行ないます。

絞込み測光の操作手順は次の通りです。

1. 緑色マークを解除します。
2. ファインダーをのぞき、構図を決定しピントを合わせます。
3. 絞込み測光レバー（セルフタイマー兼用・各部名称⑳）を内側に倒します。
4. 絞り情報窓の下部にある切込みにメーター指針がくるように絞りリングを回して調節します。（絞りリングだけで調節しきれない時はシャッターダイヤルも併用して調節します）
5. 絞込み測光とはレンズの絞りが絞込まれた状態での測光ですから、ファインダーはその時の絞り値に比例して暗くなります。
6. 切込みの中心にメーター指針がきた時が適正





露出です。

7. 絞込み測光レバーは指を離すと元に戻ります。連続して絞込む時は絞込み測光レバーの下にあるロックレバーをLに倒せば指を離してもそのまま絞込み測光レバーは固定されます。ロックレバーを解除すれば元に戻ります。
8. TSレンズやフィッシュアイ7.5mmなどの手動絞りのレンズを使用した時は、測光レバーを倒さずに絞りリングの操作だけで指針を切込みに合わせれば適正露出値が得られます。

●AE撮影にすることは、緑色マークにセットし直すことを忘れないでください。

AEの解除にしろ絞込み測光にしろ露出を決定する必要のある場合は、メインスイッチは必ずONの位置になければ露出計が作動しません。普通メインスイッチをOFFにした時にはファインダー内のメーター指針は上方赤枠内にはね上っていますが、シャッタースピードとASA感度



の組み合わせによってはメーター指針が情報窓内に出てくることもあります。

例えばASA 100の場合Bの時はF11付近に、 $\frac{1}{1000}$ 秒の時はF22付近にメーター指針が固定されます。

FDレンズを使用している時、絞込み測光をしますと設計上誤差がでますので、必ず解放測光で行なってください。



## CATS (キャッツ)

この EF は直結式の専用ストロボ，キヤノンスピードライト133Dとフラッシュオートリングの併用により，ピントを合わせる操作だけでフラッシュ撮影ができます．面倒な計算は不要です．これをCanon Auto Tuning System略してキャッツと呼んでいます．

このキャッツに使用できるレンズはFD 50mm F1.4, F1.8, FD35mm F2, F3.5の4本です．フラッシュオートリングからは距離変化を，スピードライト133Dからはコンデンサーの充電状態を信号としてカメラに与え，メーター指針を振らせますから，ストロボ撮影がAE撮影同様の手軽さで行なえる，きわめて便利なものです．使用手順は次の通りです．

1. スピードライト133Dをアクセサリシューに取り付けます．
2. フラッシュオートリングをレンズに取り付け，コードをスピードライト133Dに差込みます．フラッシュオートリングは使用するレンズに



より，A2(FD50mm F1.8S.C., FD35mm F2 S.S.C., FD35mm F3.5S.C.用)とB2(FD50mm F1.4S.S.C., FD35mm F2S.S.C., FD35mm F3.5S.C.用)があります．



FD 50mm F 1.8使用CATS (スピードライト133D+フラッシュオートリング) 1/25秒AE撮影





3. ボディの後側にあるCATS切換えスイッチ（各部名称③⑩）をNORMALより $\frac{1}{2}$ マークに切換えます。
4. シャッタースピードを $\frac{1}{2}$ /125にセットします。
5. メインスイッチがONになっていることを確認します。
6. スピードライト133DのスイッチをAUTOにし、被写体にピントを合わせてシャッターを押します。露出はカメラが決定します。
7. ピント合わせをした時、メーター指針が絞り情報窓の上下にある赤枠内に入った場合は、このストロボの撮影能力外ですので、より近づくか遠のくかしてメーター指針が絞り数値内になるように調節してください。

切換えスイッチはNORMALが一般のAE撮影であり、この状態の時は、距離およびコンデンサー充電信号が電流計に流れていないために、キヤッツは同調しません。

- $\frac{1}{2}$ マークの時もメインスイッチはONにしておきます。しかしAE撮影のための露出回路は断たれています。
- キヤッツ撮影時には、シャッターダイヤルが $\frac{1}{2}$ /125から移動していないことを確かめてください。キヤッツは $\frac{1}{2}$ /125の時適正露光となるように設計されています。これを間違えると写りません。



## 一般のフラッシュ撮影

フラッシュやストロボ撮影はキャッツのみでなく一般の方法(NORMAL)でも行なえます。ストロボの接点はアクセサリーシューの直結接点の他にボディ側面に感電防止カバーの付いた差込みソケット(フラッシュターミナル<sup>㊟</sup>の内側)があります。

ストロボコードを差込む時はカバーを押下げて差込み、コードを抜くとカバーは元の位置に戻ります。

このカバーを押下げるとアクセサリーシューの直結接点は自動的に切れますので、2つのストロボ(両接点)を使用した時はソケット側のストロボが優先となり、アクセサリーシュー側のストロボは発光しません。

E Fのフラッシュ撮影時の同調シャッタースピードは次の表の通りです。

一般のフラッシュの場合はキャッツ切換えスイッチは、 $\frac{1}{2}$ マークでもNORMAL位置でも差しつかえありません。



速度		$\frac{1}{250}$	$\frac{1}{125}$	$\frac{1}{60}$	$\frac{1}{30}$	$\frac{1}{15}$
フラッシュ	FP	×	×	×	△	○
	M MF	×	×	×	△	○
ストロボ		×	○	○	○	○

(△印はバルブのバラツキにより多少露出ムラのものであることもあります)

もちろんA E撮影ではありませんので、緑色マークははずします。

ストロボまたはフラッシュ撮影についての露出のきめ方などはストロボの使用書に従ってください。



## セルフタイマー

撮影者自身を画面に写し込みたい時、たとえば記念写真、自画像などに使用します。

アクセサリシューについているファインダーカバーを引抜き、ファインダーにかぶせファインダー部からの逆入光を防ぎます。

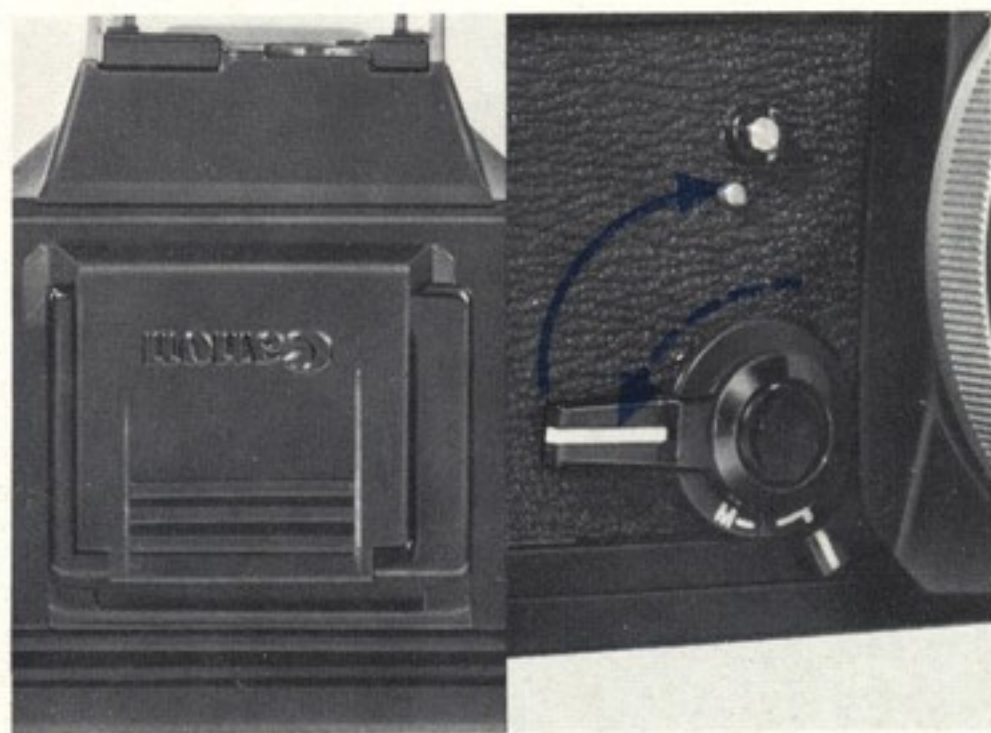
絞込み測光レバーがセルフタイマーレバーと兼用になっています。

このレバーの上にあるレバーロック解除ボタン(各部名称⑳)を押してカメラ正面より見て左回しに止まるまで回します。ついでシャッターボタンを押せば約10秒後に自動的にシャッターが切れて露光され、元の位置より少し手前で止まります。使用後は元の位置に押戻してください。このセルフタイマーはスローシャッターを使用する際のリリースの代用としても利用できますが1秒以上の長時間にシャッターダイヤルをセットしてセルフタイマーを使用した場合、シャッターボタンを押した時点から発光ダイオードが点滅しはじめます。

セルフタイマーの場合、シャッターボタンを押した瞬間の露出値で撮影されます。

シャッターボタンを押す時には、絶対にレンズの前に立って押すことは避けてください。

ファインダーをのぞき、構図、ピントを合わせたのち、ファインダーカバーをかぶせ、カメラの後側からシャッターボタンを押すのが正しい手順です。









## 低照度領域の撮影

EFの測光範囲がEV -2からEV 18と、他のカメラに比べて大変広範囲であることは前に述べましたが、とくに低照度領域を測光するエレクトロニク制御の部分、つまり1秒~30秒の測光領域をもつことは、他のカメラが補助器具として使用するブースター(微光量測光装置)を内蔵しているということです。

月光下の夜景がEV-1であるといわれており、EV-2まで測光できることは、実質的にファインダーで測距することのできる明るさの限界といえます。

したがってEFのファインダーで見えるものはすべてAE撮影が可能といえます。

もちろん1秒~30秒のような長時間の撮影は三脚、レリーズ、複写台等でカメラを動かさないよう工夫することはいうまでもありません。

また、シャッターを押すとシャッター作動中はバッテリーチェックランプ(発光ダイオード)が点滅し、カメラから離れた場所からでもシャッ

ター作動の確認ができます。

測光を含めた操作方法は明るい場所でのAE撮影と全く同じで、誰にでも簡単に行なえます。低照度の撮影は、夜間撮影、顕微鏡撮影、ペローズやエクステンションチューブなどの中間チューブ類を多用した時などで、単独露出計やカンなどではつかみ難い条件が多く、特殊分野に属するこれらの撮影に絶対有利といえます。



FD 50mm F 3.5マクロ使用  $\frac{1}{250}$ 秒AE撮影





## レンズ交換

このカメラはキヤノンのシステム化の一環として設計されています。

キヤノンF-1, FTbなどで好評を頂いている全FDレンズが使用可能なことはもとより, FLレンズ群も使用できます。

FDレンズ群, FLレンズ群だけでも50本以上のレンズ交換が可能です。

次のFDレンズ一覧表を参考にして, より広範囲な写真をお楽しみください。

レンズ交換の際に注意することは, FDレンズをカメラからはばす時にバヨネットリングとEEロックピンを同時に押えて一緒に回わさないことです。一緒に回わすとはずしたレンズはAEが解除された状態になります。

どのレンズをつけるにしても, 交換したレンズが緑色マークにセットされていることを必ず確認してください。

絞込み測光レバーがロックされていないことを確かめてからレンズ交換をしてください。





ロックした状態でレンズ交換を行なうと自動絞りが正常に作動しません。

初めて交換レンズを求める方は、第一にどのレンズが必要かに迷うことがあります。

50mmの標準レンズをお持ちの場合、スナップをする人には24mmか28mm、ポートレート撮影を好む方には100mmか135mmをおすすめします。交換レンズを3本以上お持ちの方はもう一台のボディを持つことによって、3本のレンズが3倍にも4倍にも活用できます。

2台目のカメラにF-1、FTbも立候補しております。





## キヤノンFD交換レンズ性能表

名 称	種 類	画 角	構成枚数	コーティング
7.5mm F5.6 魚眼 S.S.C.	特 殊	180°	8 群11枚	スーパースペクトラ
FD 15mm F2.8 魚眼 S.S.C.	特 殊	180°	9 群10枚	スーパースペクトラ
FD 17mm F4 S.S.C.	超広角	104°	9 群11枚	スーパースペクトラ
FD 20mm F2.8 S.S.C.	超広角	94°	9 群10枚	スーパースペクトラ
FD 24mm F2.8 S.S.C.	広 角	83°	8 群 9 枚	スーパースペクトラ
FD 28mm F3.5 S.C.	広 角	75°	6 群 6 枚	スペクトラ
FD 35mm F3.5 S.C.	広 角	64°	6 群 6 枚	スペクトラ
FD 35mm F2 S.S.C.	広 角	64°	8 群 9 枚	スーパースペクトラ
TS 35mm F2.8 S.S.C.	特殊広角	64°(シフト79°)	8 群 9 枚	スーパースペクトラ
FD 50mm F1.8 S.C.	標 準	46°	4 群 6 枚	スペクトラ
FD 50mm F1.4 S.S.C.	標 準	46°	6 群 7 枚	スーパースペクトラ
FD 55mm F1.2 S.S.C.	標 準	43°	5 群 7 枚	スーパースペクトラ
FD 55mm F1.2AL S.S.C.	標 準	43°	6 群 8 枚	スーパースペクトラ
FD 50mm F3.5 S.S.C.	マクロ・標準	46°	4 群 6 枚	スーパースペクトラ
FD 85mm F1.8 S.S.C.	望 遠	28.5°	4 群 6 枚	スーパースペクトラ
FD 100mm F2.8 S.S.C.	望 遠	24°	5 群 5 枚	スーパースペクトラ
FD 135mm F3.5 S.C.	望 遠	18°	3 群 4 枚	スペクトラ
FD 135mm F2.5 S.C.	望 遠	18°	5 群 6 枚	スペクトラ
FD 200mm F4 S.S.C.	望 遠	12°	5 群 6 枚	スーパースペクトラ
FD 300mm F5.6 S.C.	望 遠	8°	5 群 6 枚	スペクトラ
FD 35-70mm F2.8-3.5 S.S.C.	ズーム	64.2°—34.8°	10群10枚	スーパースペクトラ
FD 100-200mm F5.6 S.C.	ズーム	24°—12°	5 群 8 枚	スペクトラ
FD 85-300mm F4.5 S.S.C.	ズーム	29°—8°	11群15枚	スーパースペクトラ



## 露出記憶ボタン

逆光・雪景色，構図内に特に明るい輝点をもつ被写体の測光は，AE撮影ではファインダーで見える範囲の特に明るい部分に露出が合いますから，出来上がった写真は全体に露出不足となります。

このような時露出記憶ボタンを用います。

記憶装置は露出記憶ボタン（各部名称⑫）を押すと，その時点で絞り値は固定されカメラをどこへ向けてもボタンを押し続けている間は露出は変化しません。

たとえば，写真のように逆光の人物を写す場合

1. 構図をきめて，人物にピントを合わせます。
2. 人物がカメラの中心になるようにカメラを振り記憶装置ボタンを押して絞りの動きを止めます。
3. 1.の構図にもどし，ボタンを押したままシャッターを押します。



FD 50mm F1.4使用  $\frac{1}{25}$ 秒 F 5.6



雪景色や主体となる被写体が構図全体に比べて非常に小さな比率の時は、撮影者の手のひらを被写体と仮定して露出を記憶させて写す方法と、極く応急処置的方法ですがASA 感度を半減してAE 撮影を行なう方法とがあります。たとえばASA 100のフィルムならばその時だけASA 50にセットしてAE 撮影を行ないます。



FD 50mm F 1.4使用  $\frac{1}{25}$ 秒 F 4



FD 50mm F 1.4 使用  $\frac{1}{25}$ 秒 F 4



## 多重露出

同一フィルム上に何種類かの被写体或いは同じ被写体を何回か写込むことを多重露出といいます。このカメラは多重露出が簡単に行なえます。花火の撮影や合成写真的な味を出したい時に活用してください。また商品広告用写真，教育用スライドのタイトル用写真などには欠かせない装置です。

1. 1回目の露出(シャッターを切る)を行ないます。
2. メインスイッチの軸にある多重露出ボタン(各部名称③③)を押したまま巻上げレバーで巻上げます。この操作によってフィルムが巻上げられることなくシャッターのみがチャージされて、2回目の露出が可能となります。
3. シャッターボタンを押して2回目の露出を行ないます。

この繰返しによって何回でも同一画面に異なった被写体を写込むことができます。この間フィルムカウンターは動きません。

露出回数は憶えておきます。

ただし、同一画面に何回も露出するわけですから露出値の補正が必要となります。

この補正はフィルム感度セットリングによって調節する方法とAE解除による方法とがあります。多重露出をする回数をフィルムのASA感度に掛けた数値をフィルム感度セットリングにセットします。たとえば4重露出をする場合、ASA100のフィルムを使用していれば $100 \times 4 = 400$ となり、この400を感度セットリングにセットすれば





よいことになります。これは簡単な被写体（平均的明るさの被写体）の場合であって、黒っぽい被写体と白っぽい被写体と混合の場合などは多少の経験が必要になります。

夜空に開く花火などの撮影はこの感度セットリングの調節は不要で、そのまま多重露出をして差しつかえありません。

多重露出の場合、重ねる被写体の配置が作品の良否を決定します。

また、重ねる被写体は一般に黒の部分の多い被写体から順に撮影すると良好な結果が得られるようです。

全体に白っぽい画面または大変明るい画面の場合は多重露出には適していません。

●カメラの機構上は何回撮影してもフィルムは動かないで画面は一致するようになっていますがフィルムのたるみなど微妙な現象によってわずかな誤差がでることもあります。



第一露出 滝 FD 300mm F 5.6使用 $\frac{1}{60}$ 秒F 5.6 (オレンジフィルター)  
第二露出 ポートレート FD 100mm F 2.8使用 $\frac{1}{25}$ 秒F 5.6



## 被写界深度

レンズの性質のひとつに被写界深度があります。ある1点にピントを合わせても、その前後に多少ピントの合う部分があります。これを被写界深度といいます。

ピントの合っている部分の前後の幅を写真用語で「被写界深度の幅」と称していますが、この幅はピントを合わせた点を基準にして、おおよそ手前(カメラ側)が $\frac{1}{3}$ 、後側が $\frac{2}{3}$ の比率になります。

被写界深度は次の3つの条件によって左右されます。

1. ピントを合わせた点が一定の場合、絞り値を絞れば絞るほど、被写界深度は深くなります。  
1本のレンズについていえば、開放絞り値の時が、最も浅い被写界深度となります。
2. 絞り値が一定の場合、被写体の距離が遠いほど被写界深度が深くなります。したがってどのレンズも至近距離での撮影の場合が最も浅くなります。

3. レンズの種類別では、広角レンズの方が望遠レンズより被写界深度が深い性質があります。以上の3条件を総合した場合、望遠レンズを使用して、余り絞れない時の近距離撮影ほどピントをしっかりと合せる必要があります。逆にその時が一番ボケを利用することができるわけです。

被写体を強調するために、バックの風景をボカして整理する必要がある場合とか、製品写真、女性を美しく見せるアップのポートレートなどによく利用します。

被写界深度の深さを利用する場合には、街や子供達のスナップ写真の雰囲気や情景の描写に使用したり、記念写真などの数列に並んだ集合写真などの前列から後列までの全域を明確に写す場合に利用します。

記念写真の場合は前列と後列の間の手前 $\frac{1}{3}$ の列にピントを合わせ、カメラブレや被写体ブレが起きない程度のシャッタースピード(大体 $\frac{1}{60}$ 秒以上)にし、絞りをできるだけ絞って撮影します。

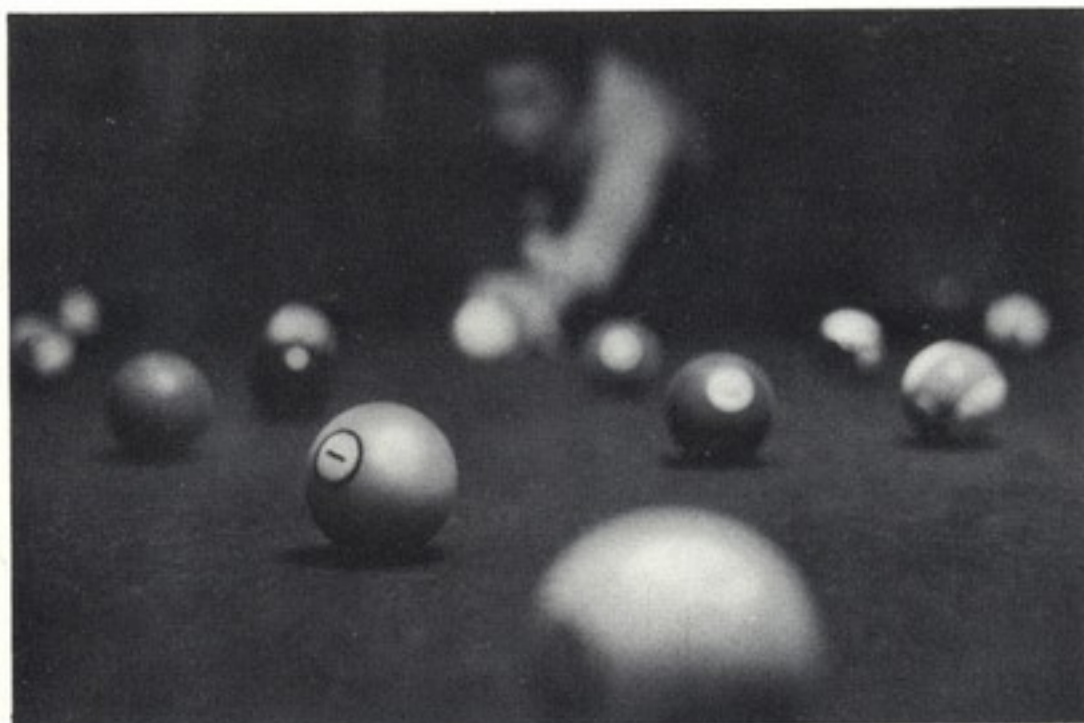




F4に絞った場合



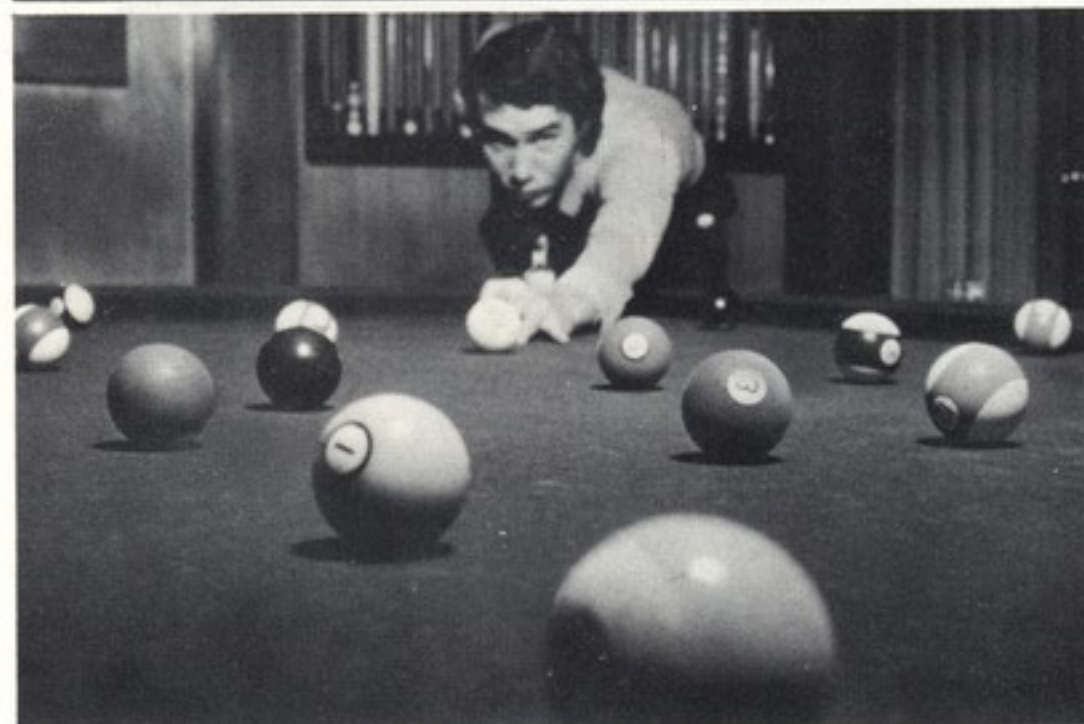
ピントの合う範囲



F16に絞った場合



ピントの合う範囲







FD 300mm F 5.6使用  $\frac{1}{250}$ 秒AE撮影



FD 100mm F 2.8使用  $\frac{1}{250}$ 秒AE撮影



## 被写界深度の確認方法

### 1. FDレンズを使用している時

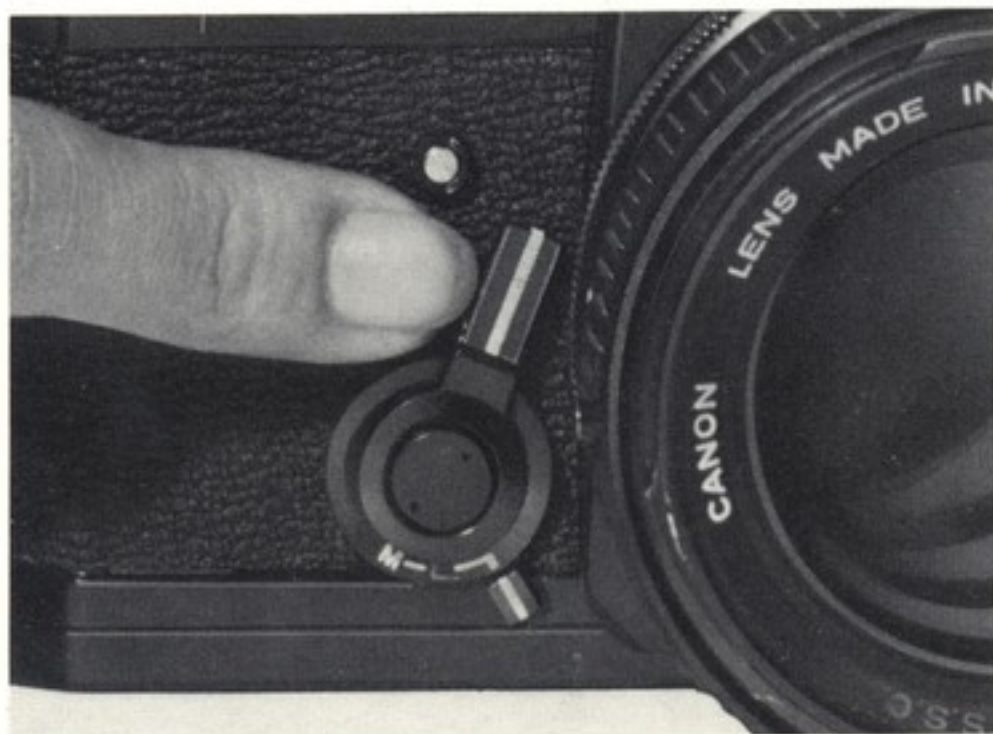
フィルムを巻上げた後（シャッターがチャージされている状態）、レンズをマニュアル絞り（緑色マークを解除する）にし、表示された絞りにセットして絞り込み測光レバーを内側に倒し、ファインダーをのぞけば、その時点の絞り値まで絞られます。

確認後AEで撮影する場合は、緑色マークを指標にセットし直すことを忘れないでください。

巻上げ後レンズがAE状態（緑色マーク）のまま絞り込み測光レバーを倒しても絞りは最小絞りとなり、その時点の被写界深度は確認できません。

### 2. FLレンズを使用している時

絞り込み測光レバーを倒せば、その時点の使用絞りまで絞った状態が確認できます。これは絞り込み測光と同じ操作です。





## 被写界深度目盛の読み方

被写界深度目盛を読むには絞り目盛と距離目盛が関連します。

例 (F 8 に絞った場合)

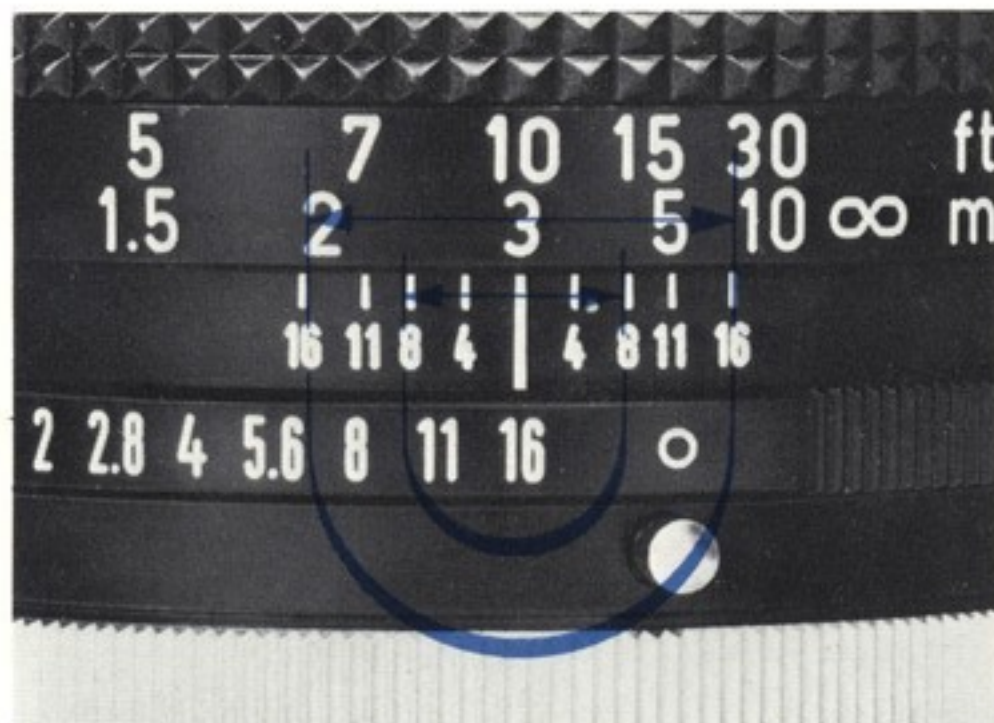
50mm レンズを使用し 3 m の距離にある被写体にピントを合わせ、F 8 の絞りを使うとすれば、図のように距離指針の両側にある 8 の目盛に対応する距離目盛(約2.3mと4.3m)を読みとります。この2.3mと4.3mの間が被写界深度の幅となります。

例 (F 16 に絞った場合)

F 16 に絞れば約 1.9m から 7.6m まで鮮明に写すことができます。

レンズのフォーカシングリングに印されている距離目盛はフィルム位置マーク(各部名称⑩)よりの距離で、被写体とフィルム面との距離を表わします。レンズ面と被写体間の距離ではありません。

フラッシュ撮影や接写、複写等によく使用されます。





## ミラーアップ

一般の撮影に用いる機会はほとんどありませんが被写体との距離、画界が一定で極く微小な振動（シャッターを切った時のミラー作動の衝撃振動）もきらう顕微鏡写真や拡大複写撮影などのためにミラーを上げっぱなしにしておく装置があります。

ミラーを上げることによって作動部分はシャッターだけとなり、シャッターを切った時のショックが大変小さくなります。

絞込み測光レバーを絞込みの方向に押しながら絞込ロックレバー（ミラーロック兼用・各部名称<sup>㉔</sup>）をMにするとミラーは上がりっぱなしになります。露出値はミラーアップする前に測り、マニュアル撮影で行ないます。

ミラーアップをしてから露出を変更するような時（複写時のライト装置の変更など）は、あらかじめミラーを下ろして測光しなおしてください。





FD 50mm F 1.4使用 1/60秒F8 オレンジフィルター使用





## 赤外撮影

レンズのフォーカシング指標の横（焦点深度目盛の間）に小さな赤点があります。これが赤外マークです。

つまり赤外マークはこの補正をした赤外線写真撮影専用のフォーカシング指標です。赤外用黑白フィルム（赤フィルター併用）を使用して撮影するときは、ファインダーを通してピント合わせをしても実際に赤外線が結ぶピント面とはズレています。

赤外線の屈折率は可視光線のそれと異なるために補正が必要です。

ファインダーを見て合わせたフォーカシングリング上の距離目盛を赤点にまでズラして撮影します。

たとえば、5mの位置にある被写体の普通の撮影の仕方は①のようですが、赤外線写真の場合は②のようになります。

また、露出測定の方法も普通写真の方法とは全く異なります。

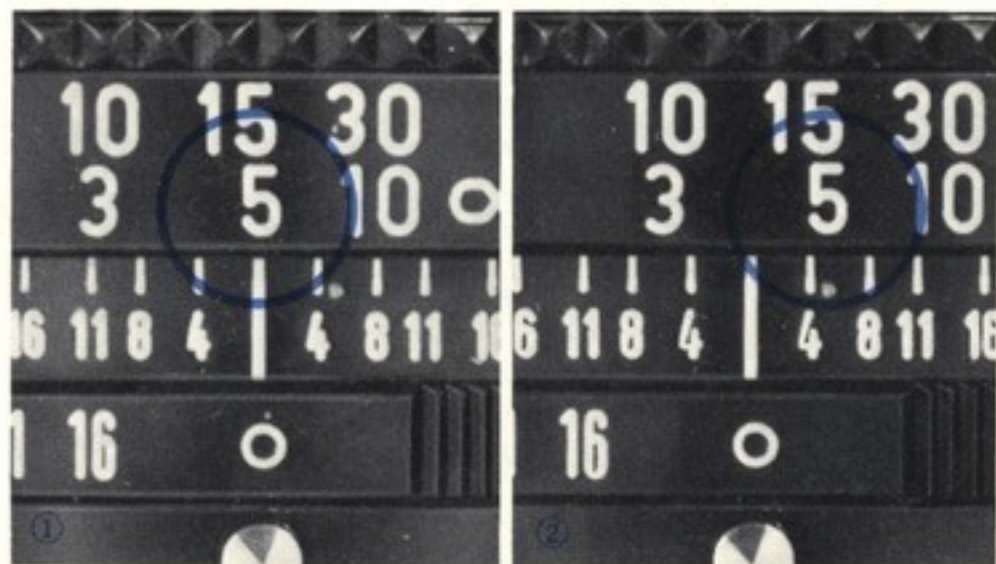
目安としてKodak HIE (High speed infrared) に指定フィルターをつけた状態で、

晴天時は  $\frac{1}{25}$  秒 f 11

薄日時は  $\frac{1}{30}$  秒 f 11

と一定の露出値があります。

最近発売されたカラー赤外線写真フィルムの場合には黄色フィルター（ラッテン12）をつけますが、赤外マークに合わせる必要がなく、普通の撮影方法をとってください。「露出測定」は赤外フィルム各々の特性がありますのでフィルムの説明書にしたがったシャッタースピードと絞り値にセットして撮影を行なってください。





## キヤノン EF の主要性能

型 式：35mm フォーカルプレーンシャッター式一眼レフレックス AE カメラ

画面サイズ：24mm×36mm

レ ン ズ：FDレンズシリーズ (AE 撮影)  
FLレンズシリーズ (絞込み測光)

標準レンズ：キヤノンFD55mm F1.2 S.S.C.  
FD50mm F1.4 S.S.C.  
FD50mm F1.8 S.C.

ファインダー：ペンタゴナルダハプリズム使用、  
アイレベル式

ピントガラス：マイクロプリズムを距離計中央  
に配置、周辺マット面

視野の大きさ：上下92%，左右93%

倍 率：標準 50mmレンズ無限遠の場合  
0.82倍

視野情報：絞り目盛 (FDレンズ取り付けに  
より自動セット式)、露出警告マーク、定  
点マーク (FLレンズ絞込み測光用)、シャ  
ッタースピード (B・ $\frac{1}{1000}$ ~30秒)

ファインダーアタッチメント：アングルファイン  
ダー、マグニファイヤー、視度補正レン

ズ4種、アイカップ取付け可能

ミ ラ ー：ノンショッククイックリターンミ  
ラー (全反射) ミラーアップ固定装置付き  
シャッター：上下走行式メタルフォーカルプレ  
ーンシャッター

シャッター速度制御： $\frac{1}{1000}$ ~ $\frac{1}{2}$ 秒 (10段) と B は  
メカニカル制御

1~30秒 (6段) はエレクトロニク制御

シャッターダイヤル：巻上げ軸と同軸のダイヤ  
ル B・ $\frac{1}{1000}$ ~1秒 (白字)、  
 $\frac{1}{125}$  (オレンジ)、2~30秒 (黄色)

ファインダー内の表示は B・ $\frac{1}{1000}$ ~1秒 黒  
字、2~30秒 白抜き字

警告装置：1秒以下のスローシャッター作動  
時にバッテリーチェックの発光ダイオード  
が点滅し警告を発する

セルフタイマー：内蔵式 シャッターボタンで  
始動 時限約10秒、不用意にセルフタイマ  
ーがかからないロック機構付き 絞込み測  
光レバー兼用

露出調節機構：フィルム感度、絞り値に連動す  
るシャッタースピード優先式 AE (FDレン



ズシリーズ使用) シリコンフォトセル受光素子使用の TTL 開放測光方式

FLレンズシリーズに対しては定点絞込み測光方式(絞込み測光レバーのロック可能)

測光範囲: ASA 100 FD50mm F1.4で EV -2~EV 18連動範囲外に警告信号赤マークあり

使用フィルム感度: ASA 12~ASA 3200

電源: HD型水銀電池(JIS規格1.3V) 2個使用

EEロック機構: 押しボタンによる絞りのロック機構組込み

スイッチ類: メインスイッチ(ON-OFF 切換え式), バッテリーチェッカー, NORMAL-FLASHの切換え式スイッチ

シンクロフラッシュ: X接点  $\frac{1}{25}$ 秒

ソケット: アクセサリーシュー部に直結接点(CATS接点) ボディ側面にJIS B型ソケット(感電防止カバー付き)

CATS: オートリングおよびスピードライト133Dとの組み合わせにより可能

多重露出: 巻上げ開始時多重露出ボタンを押

すことにより可能, 反復操作可能

多重露光時はフィルムカウンターは停止

レンズマウント: バヨネット式マウント

FD, FL, R各レンズ取付け可能

被写界深度確認: レンズの絞目盛セット後絞込み測光レバーを押して行なう

自動空送り装置: フィルム装填時の空送り機構組込み(フィルムカウンター1より撮影)

フィルム装填: 巻戻しクランク引上げによる背蓋開閉 フィルム装填は多スリットスプールによるイージーローディング

フィルム巻上げレバー: 1作動120°回転レバー, 小刻み巻上げ不可

フィルム巻戻し: 巻戻しボタンおよびクランク操作, 巻戻しボタンは自動復帰式

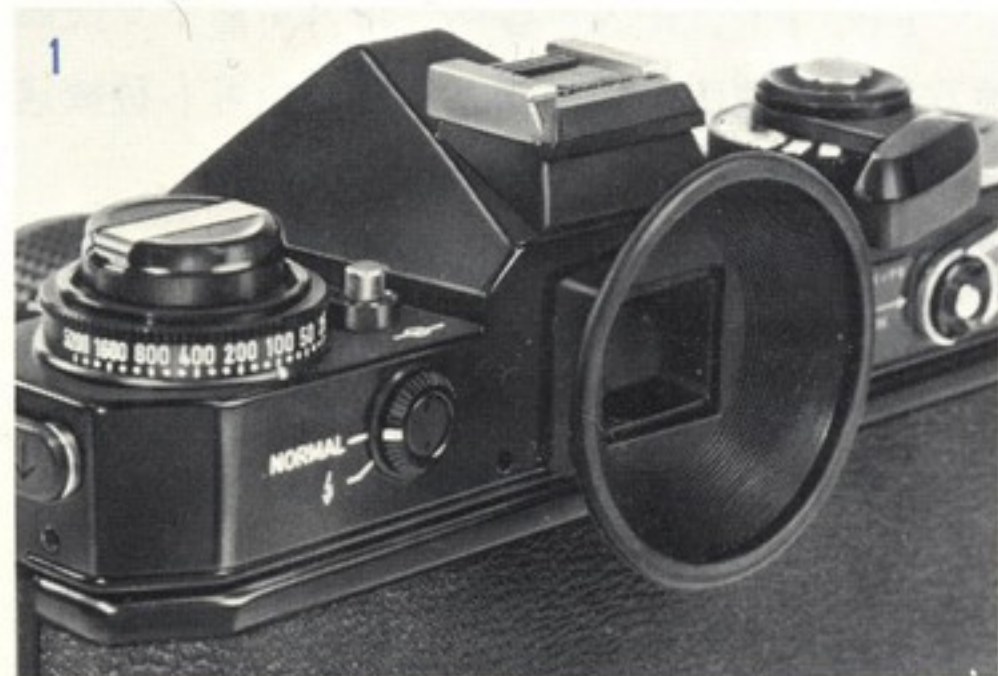
フィルムカウンター: 順算式, 自動復元式

パトローネ室: フィルム面安定性向上のためのアゴ付きパトローネ室

大きさ・重量: 147×47.7×96mm 740g(ボディのみ)



## 附属品



### 1. アイカップ

カメラ購入時に付属しているもので、ファインダー部にはめ込みます。無駄な光をさえぎりファインダー内に神経を集中できるため、スナップ時などに便利です。

### 2. アングルファインダー A2型およびB型 胸高ルーペです。

接眼部に上方から差込んで使用し、上方および横位置にしてのぞきます。複写、接写撮影などに便利です。A2型は左右反対像の簡易型、Bは完全正立像の高級型です。



### 3. 視度補正レンズ (4種)

ジオプター	+1.5	0	-2.5	-4
適用度数	+22°~∞	-25°~∞	-10°~-20°	-7°~-11°

接眼部に取付けて近視や遠視の方が眼鏡なしに鮮明なファインダー像を見ることが出来る補正レンズです。

カメラ店又はサービスステーションでご相談ください。

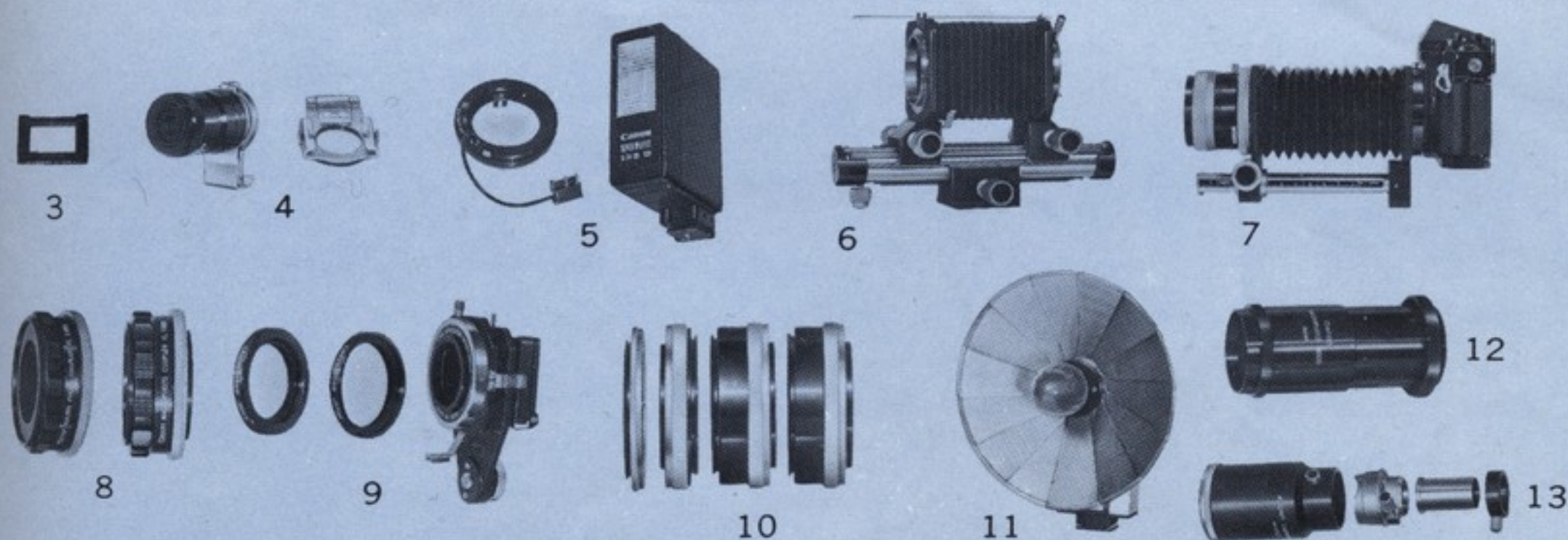
### 4. マグニファイヤー

マグニファイヤー S

マグニファイヤーアダプター

ファインダーのピントガラスを拡大して見る直





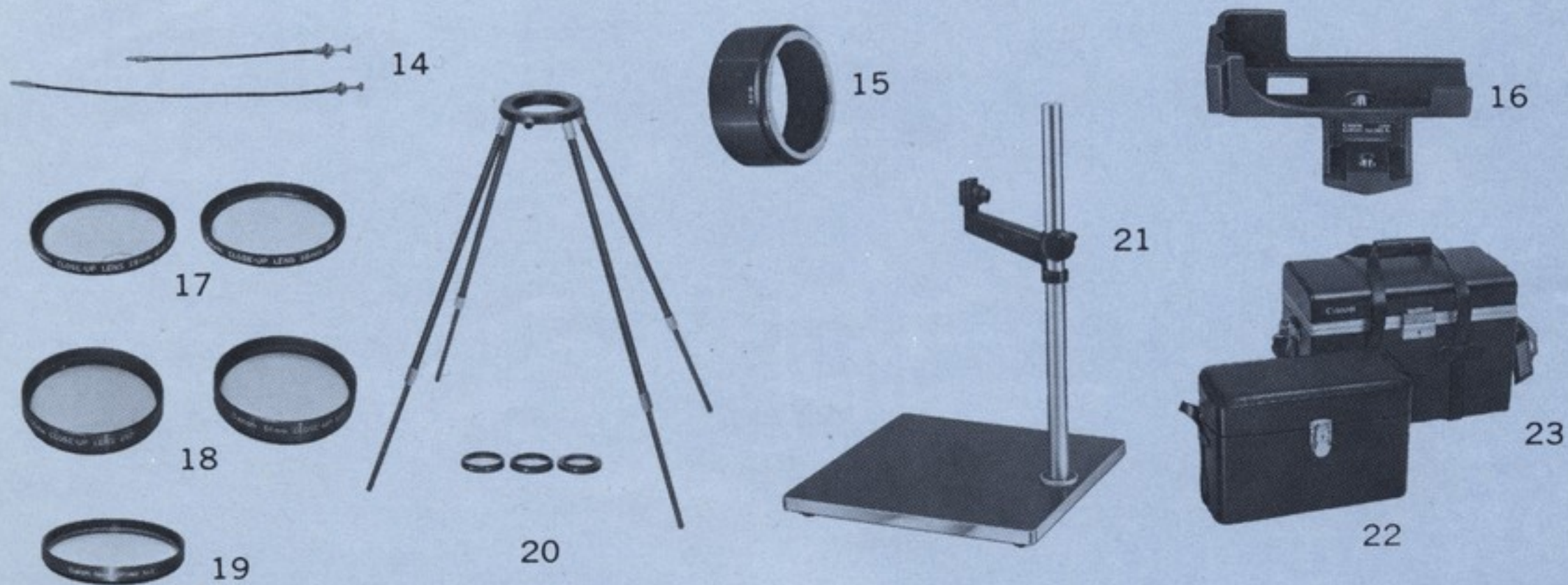
視ルーベです。アダプターと併用し、差込み型式ではね上げ可能ですから、ピント確認後視野全体を見る操作も楽にできます。

#### 5. キヤノンスピードライト 133D A2, B2セット

キャッツのための専用ストロボです。発光間隔の短縮と性能の安定を主眼として設計されました。ガイドナンバーASA100 12~20(m), 40~60(ft) クリップ・オン・タイプ、単三乾電池4本使用マンガン電池で約80回、アルカリマンガン電池で約300回発光可能

- 6. ベローズFL
- 7. ベローズM
- 8. マクロフォトカプラーFL55, FL58
- 9. スライドデュプリケーター(複製装置)  
(48mm, 55mmセット)
- 10. エクステンションチューブMセット  
(M5, M10, M20×2)
- 11. フラッシュV-3(ケース付)
- 12. マイクロフォトフード  
(顕写フード, ベローズ併用による倍率可変)





13. フォトマイクロユニットF  
(顕写フード倍率固定)

14. キヤノンレリーズ30  
キヤノンレリーズ50

15. レンズフードBS-55

16. カメラホルダーF-2

17. 58mmクローズアップレンズ  
240, 450, 1800

18. 55mmクローズアップレンズ  
240, 450

19. フィルター—55mm { Y1, Y3, OI, GI, RI, UV  
スカイライト, ND4  
ND8, CCA12, CCA8  
" 58mm { CCA4, CCB12, CCB8  
CCB4

20. ハンディスタンドF(一式)

21. コピースタンド4

22. ギャゼットバッグ4型

23. ギャゼットバッグG-1



## 整備と環境と事故への対策

カメラに限らず適切な整備と手入れがあって、はじめて期待通りの性能を発揮します。

### ●カメラは湿気・塩分を嫌います。

長い間使わない時は

- ①皮ケースからカメラを抜き出し
- ②水銀電池を抜き取り
- ③湿気のない所に保管します。

水銀電池を長い間、入れっぱなしにしておくと電池からの漏液でカメラの接点をいためます。

### ●カメラはごみ・ほこりを嫌います。

ごみ・ほこりが付いたら

- ①レンズ・ファインダー・フィルム室などはブローカーか刷毛で吹き払い
- ②落ちにくいよごれはレンズクリーナーで拭き取ります。

拭き方のコツ

- ①やわらかい布を使います
- ②液を少量つけます
- ③レンズの中心から外側に渦巻き状に拭き

ます。

### ④軽く拭きとります。

### ●カメラを海(水中)に落としたり

→修理はほとんど不能ですが、一応すぐ営業所またはサービスステーションに相談します。

### ●紛失・盗難

→すぐ警察へ届け出ます。

最寄りのカメラ店に相談すると、わずかの費用で全国の業者に連絡してくれます。

カメラ・レンズのNo.を憶えるかメモをとっておきます。

### ●寒冷地では

- ①急激に暖かい室内に入れると水分が凝固し、レンズがくもります。(ゆっくり環境温度に慣らします)
- ②寒冷地では電池の性能が劣化するので、できるだけ外気にふれることを避けます。
- ③フィルムが固くなりますので、なるべくフィルムの巻上げ、巻戻しはゆっくり行ないます。



④カメラにも防寒具を着せます。

●高温地では

①高温環境下に長時間放置すると故障の原因となります。

②撮影が済んだら、涼しい所に早く戻します。

●高湿下では

①フィルムの粘着，乳剤面のはく離，感度低下，金属部のサビの発生などがおきます。

②乾燥剤を活用します。

③フィルムを「カメラに装填しっぱなし」を避けます。

●圧着板の清掃

圧着板に付くごみやほこりはフィルム傷の原因となります。カメラの外観だけでなくフィルム室，圧着板もブローアなどてこまめに清掃してください。

●直射日光下には置かないでください。

やむをえず置く場合は，必ずキャップをしてください。

●車のリヤウインドーやトランク内では60℃を越えることがありますのでご注意ください。

## キヤノンクラブ

キヤノンご愛用の皆様で作っているクラブです。会誌「キヤノンサークル」(A4判・60頁・広告なし)を通じて写真の楽しさをより拡大します。一流写真家の参考作品，技術記事，新製品紹介，会員の作品発表，撮影の情報，連絡事項など盛り沢山の月刊誌です。

### キヤノンクラブの6大サービス

①キヤノンサークル誌を配布，作品発表可能

②フォトコンテスト，ヤングヤングフォトコンテスト，8mm映画コンテストなどを開催

③8mm映写会(コンテスト上位フィルム発表会)

④撮影会

⑤誌上「月例コンテスト」得点票による製品贈呈

⑥写真のすべてに関する質問のお答えとアドバイス

入会金 100円

年会費 2,400円(キヤノンサークル誌一年分購読料，送料を含みます)

キヤノンサークル係 (03)455-9347



## キヤノンサロン

キヤノンでは銀座サービスステーション2階にサロンを設けています。

作品の発表の場であると同時に内外写真家の作品の展示によって写真の啓もう活動を行なっています。優れた作品をお持ちください。

待ち合わせなどにお気軽にサロンをご利用ください。

キヤノンサロン事務局 (03) 571-7389

土・日・祝・祭日は休館です。

開場時間 午前9時30分～午後5時30分

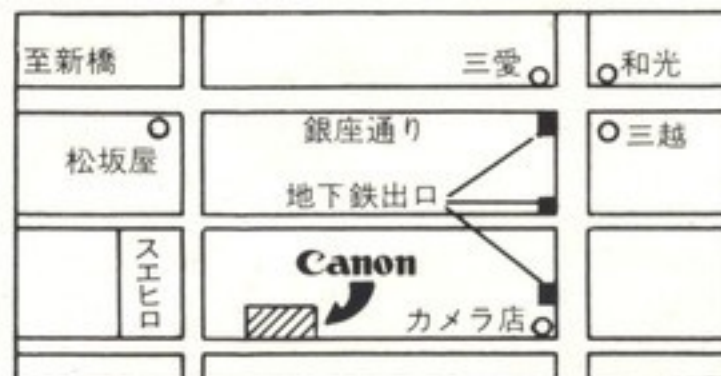


## サービスステーション

写真のご相談・ご質問，万一故障の際などは最寄りのサービスステーションをご利用ください。故障修理対策としてサービスステーションのない全国主要都市には修理技術認定店を設けて迅速な修理が行なえるよう努力しております。

海外ではニューヨーク・アムステルダムなど6拠点的ほかに1国1代理店制度をとり40数カ国のサービス網をもっています。

海外については，サービスステーションでご相談ください。



銀座サービスステーション(地下鉄銀座駅下車)

〒104 東京都中央区銀座5-9-9

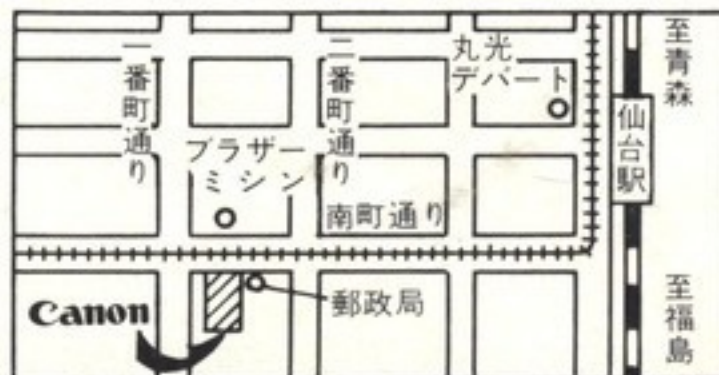
☎(03)572-4251





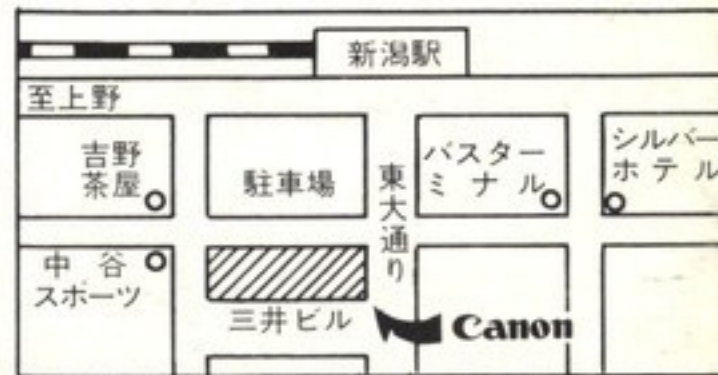
札幌営業所(富士銀行前)

〒060 札幌市中央区北三条西4-1  
第一生命ビル ☎(011)231-1313



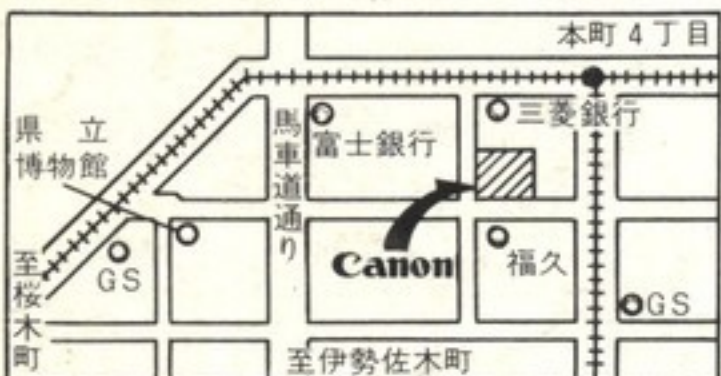
仙台営業所(南町通り)

〒980 仙台市一番町1-1-30  
大和生命ビル6階 ☎(0222)66-4151



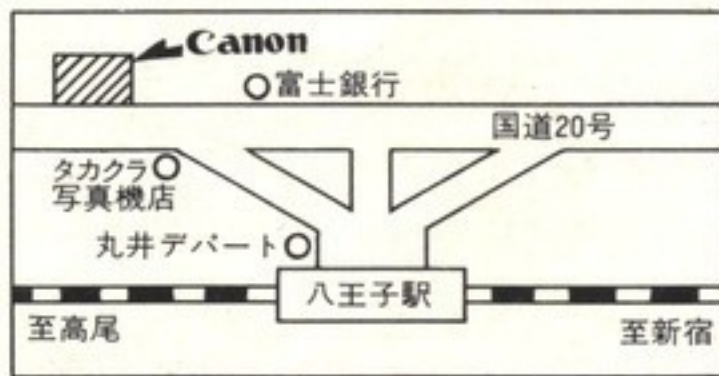
新潟営業所(新潟駅前)

〒950 新潟市東大通1-4-1  
マルタケビル7階 ☎(0252)43-2111



横浜営業所(市電 本町4丁目下車)

〒231 横浜市中区南仲通り4-39  
石橋ビル ☎(045)211-1691



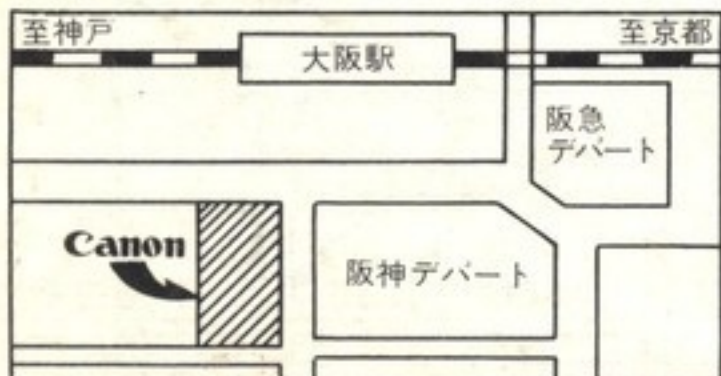
八王子営業所

〒192 八王子市八幡町11番2号  
繊維貿易館1階 ☎(0426)25-7511



静岡営業所

〒420 静岡市鷹匠2-7-2  
静米会館 ☎(0542)55-2241



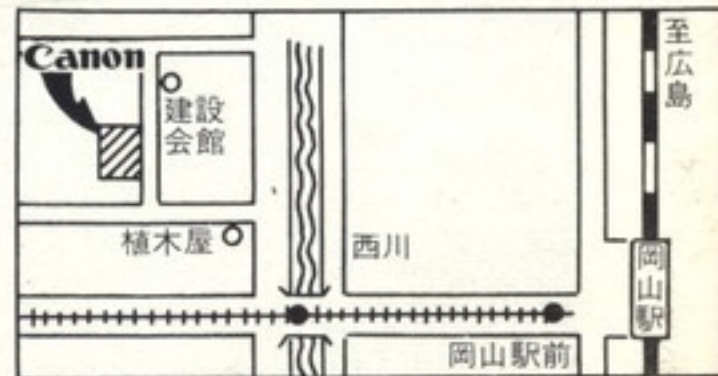
大阪サービスステーション(国鉄大阪駅前)

〒530 大阪市北区梅田2  
第一生命ビル2階 ☎(06)341-9335



大阪サービスセンター(森の宮駅下車)

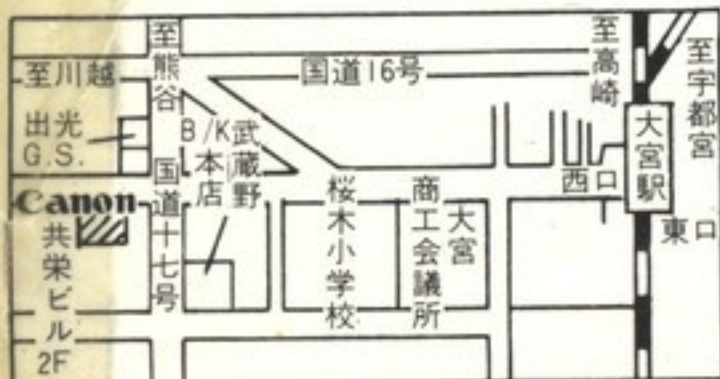
〒540 大阪市東区越中町858  
☎(06)941-1076



岡山営業所(市電 西川下車)

〒700 岡山市平和町4-7  
☎(0862)22-8228





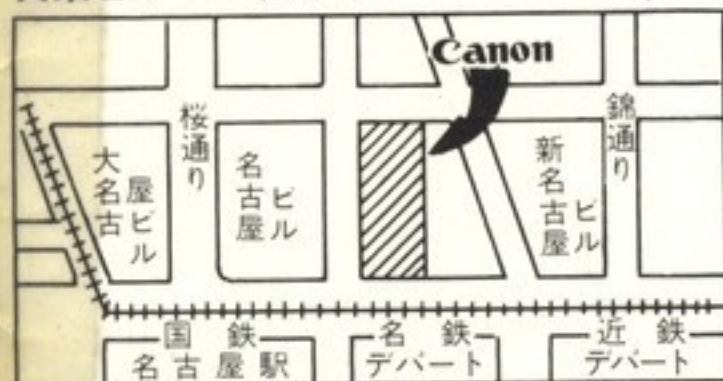
**大宮営業所**  
 〒330 大宮市桜木町4-218  
 共栄ビル ☎(0486)41-9122



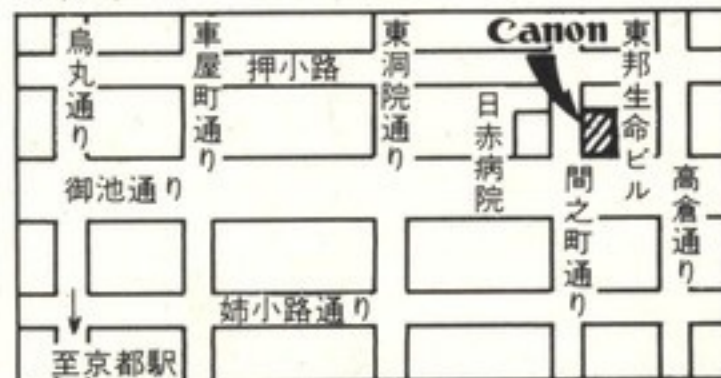
**東京サービス・センター**  
 〒142 東京都品川区二葉1-7-15  
 ☎(03)785-7211(代表)



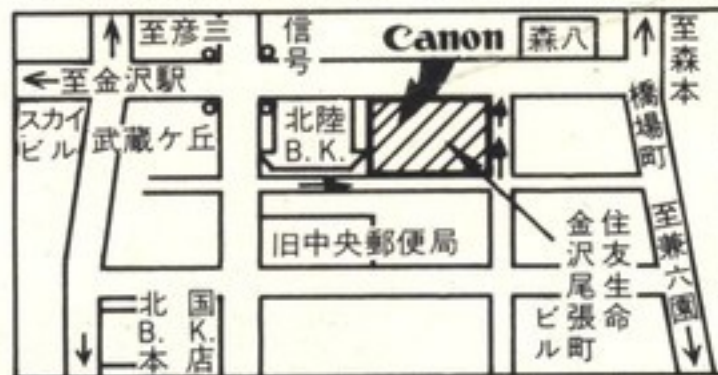
**千葉営業所**(バス停 労働福祉センター前下車)  
 〒280 千葉市千葉港4-3  
 千葉県私学会館4階 ☎(0472)43-9648



**名古屋営業所**  
 〒450 名古屋市中村区堀内町4-1  
 毎日会館2階 ☎(052)581-3811



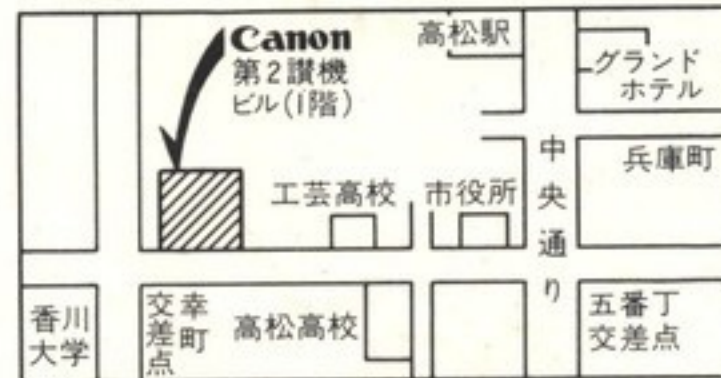
**京都営業所** 〒604  
 京都市中京区御池通り間之町東入ル高宮町206番地  
 東邦生命ビル5階 ☎(075)241-0216



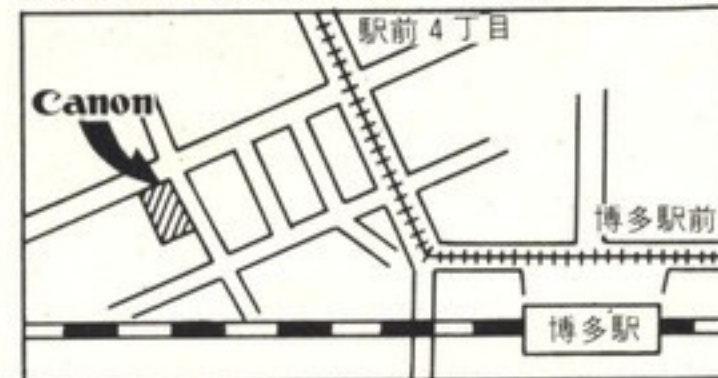
**金沢営業所**  
 〒920 金沢市尾張町1丁目11番14号  
 住友生命金沢尾張町ビル3階 ☎(0762)32-1711代



**広島営業所**  
 〒730 広島市小町2-30  
 第二有楽ビル4階 ☎(0822)44-4615



**高松営業所**  
 〒760 高松市番町2-17-15  
 第二讃機ビル1階 ☎(0878)51-7121



**福岡営業所**(博多駅 徒歩5分)  
 〒812 福岡市博多区博多駅前4-20-23  
 セントラルビル ☎(092)41-4172





※各部名称の折り込みはしおりの代りとなります。



お手持ちの機材のナンバーを控えておきましょう

ボディ NO.

---

ボディ NO.

---

ボディ NO.

---

レンズ NO.

---

レンズ NO.

---

レンズ NO.

---

---

---



# Canon

キヤノン株式会社

キヤノン販売株式会社

〒108 東京都港区三田 3-11-28

カメラ販売企画部 ☎ (03) 455-9353